

—— ゴルフ用語集 ——



Golf Obara Online

benefit of becoming a registered user

GOLF OBARA ONLINE ゴルフ用語集

はじめに…

ここでは GOLF OBARA ONLINE の解説で使用するゴルフ用語集について詳しく解説していきます。

ゴルフは、技術だけではなく知識を付けることでも上達していきます。

すべての会員様にゴルフの知識を深めていただきたいという考えのもとすべての会員様にゴルフ用語集をお配りしています。

教材の中で分からない用語があった場合は、こちらの用語集で確認してください。

ゴルフ上達のために基本的な用語の理解は不可欠です。

ぜひこの用語集を活用してください。

【ア行】

アイアン

比較的平らなフェースを持つクラブの分類。一般に番手が小さいほどロフトが少なく、長い距離を打つ設計です。現在のヘッドはステンレス、軟鉄、チタンなどさまざまな素材や複合構造で作られており、金属製クラブすべてをアイアンと呼ぶわけではありません。

赤のペナルティーエリア

赤杭または赤線で定められたペナルティーエリアです。区域内の球は、罰なしでそのままプレーできます。また、1罰打でストロークと距離の救済、後方線上の救済、または球が区域の縁を最後に横切った地点を基点とする2クラブレンジス以内のラテラル救済を選ぶことができます。

アウトオブバウンズ(OB)

コースの境界の外側をいい、一般に白杭や白線で示されます。球全体が境界線の外にあるときにOBとなります。原則は1罰打を加え、直前のストロークを行った場所から打ち直します。進行を早めるための特設ティーや、紛失球・OBの代替処置を定めるローカルルールが採用されている場合は、その内容を確認します。

アウトコース

ゴルフコース全18ホールの前半、1~9番ホールの総称です。もともとはゴルフはスタートしてから18ホールを続けて回る(スループレー)でした。ですから前半をゴーイング・アウト、後半をカミング・インと呼んでいた名残りと言われる。

アウトサイドイン

インパクト付近でクラブヘッドが目標線の外側から球へ入り、インパクト後は内側へ抜けるクラブ軌道。右打ちではクラブパスが目標線に対して左方向となる軌道を指します。球の打ち出し方向や曲がりは、軌道だけでなくフェース向き、フェースと軌道の関係、打点などによって変わります。

アウトドライブ

他のプレーヤーより遠くへ球を飛ばすこと。英語の「outdrive」に由来します。日本では「オーバードライブ」も通称として使われます。

アドレス

ボールを打つために構えた姿勢や、構える動作を一般的に指すゴルフ用語です。現行規則では「クラブを地面につけたらアドレスが完了する」という旧定義は使いません。

アゲンスト

【通称・和製英語】向かい風のこと。英語では一般に「headwind」といいます。向かい風では球の飛距離が落ちやすくなりますが、弾道や曲がり方は打ち出し角、スピン量、風向・風速などによって異なります。

アプローチ

グリーンやピンを狙う比較的短い距離のショットを、アプローチショットといいます。距離や状況に厳密な共通基準はなく、ランニングアプローチ、ピッチエンドラン、ピッチショット、ロブショットなど、球の上げ方や転がし方に応じたさまざまな方法があります。アプローチパットは、長い距離のパットを次の1打で入れやすい位置へ寄せるパットを指します。

アゲンストパー

各ホールのスコアを基準スコアと比較して勝ち、負け、タイで記録するストロークプレーの競技形式。パーを基準とする場合、パーより少ないスコアは勝ち（プラス）、パーより多いスコアは負け（マイナス）、パーはタイとなり、最終的な合計で順位を決めます。規則上は「パー／ボギー競技」と呼ばれます。

アゴ(あご)

バンカーのフチのこと。「アゴが高い」と言えばピンに向かって縁がせり上がっている状態を指す。バンカーショットでボールを高く上げなければならず、それだけショットが難しくなる。

アッパーブロー

インパクト時にクラブヘッドが上昇している軌道で球を打つこと。弾道計測では、上向きのアタックアングルとして表されます。ドライバーで用いられることがありますが、飛距離はヘッドスピード、打点、打ち出し角、スピン量などにも左右され、上向きに打てば必ず飛距離が伸びるとは限りません。

アップダウン

コースの起伏のこと。「アップダウンがきつい」といえば、打ち上げや打ち下ろしが多い、または高低差が大きいことをいいます。英語の「up and down」は、グリーン外からアプローチして1パットでホールアウトする「寄せワン」の意味でも広く使われます。

アップライトスイング

クラブやシャフトの軌道が、基準とするスイングやプレーヤーの体格に対して比較的縦方向で、傾きが急なスイングの通称。実際のクラブ軌道が地面に対して垂直になるという意味ではありません。

アップライト

スイングでは、クラブ軌道の傾きが比較的急な状態を指します。クラブ設計では、ライ角が大きく、シャフトがより垂直に近い設定を指します。反対は「フラット」です。

アテスト

スコアを証明すること。ストロークプレーではラウンド終了後、マーカークが各ホールスコアを証明し、プレーヤーも自分のスコアを証明して委員会へ提出します。「アテスト」は現在も広く通じますが、規則では「証明」という表現が中心です。

アドバイス

クラブ選択やストローク方法など、プレー上の決断に影響を与える助言。ラウンド中、規則で認められた自分のキャディー、パートナーやそのキャディーなどを除き、他人にアドバイスを求めたり、競技中の他のプレーヤーに与えたりしてはなりません。違反は一般の罰で、マッチプレーではホールの負け、ストロークプレーでは2罰打です。距離や規則などの公開情報はアドバイスに含まれません。

アプルーブ

【旧用語・通称】従来、マーカークが証明したスコアカードをプレーヤー本人が確認し、署名することを指した表現です。現行規則では、マーカークとプレーヤーがスコアを「証明する」と説明します。証明の方法は委員会が定める手続きに従います。

アプローチウェッジ (AW)

ピッチングウェッジとサンドウェッジの間の距離を補うために使われるウェッジ。ギャップウェッジ (GW) と呼ばれることもあります。ロフト角やバウンス角は製品によって異なり、グリーン周りや短い距離のショットなどに使用します。

アベレージゴルファー

平均的な技量のゴルファーを指す通称。具体的な平均スコアやハンディキャップは、対象となる集団や調査によって異なり、公式に定められた数値基準はありません。「アベレージ」は平均スコアを指して使われることもあります。

アマチュア

単に趣味でゴルフをする人というだけでなく、R&AとUSGAが定める「アマチュア資格規則」に基づく資格上の区分です。アマチュアゴルファーは、職業としてではなく、また金銭的利益を目的とせずにゴルフをプレーする人を基本とします。賞金、ゴルフ指導、広告などには資格に関する制限や例外があります。

アマチュアサイド

パッティングで、傾斜による曲がりを少なく見積もり、カップの低い側へ外すことを指す通称。反対の高い側は「プロサイド」と呼ばれます。単にカップへ届かずショートしたことと、アマチュアサイドへ外したことは同じ意味ではありません。

アーリーコック

バックスイングの早い段階から、手首のコック（ヒンジ）を使い始める動きやスイング方法。どの位置からをアーリーコックと呼ぶかに厳密な基準はなく、適切なタイミングはスイング理論やプレイヤーによって異なります。

アリソン・バンカー

【通称】英国のコース設計家チャールズ・H・アリソンが設計・改造したコースに見られる、深く急なアゴを持つバンカーや、それに似た形状のバンカーを日本で呼ぶ表現。正式な規則用語ではありません。川奈ホテルゴルフコース富士コースなどで知られています。

R&A

ゴルフ規則をUSGAと共同で制定・管理する組織です。2004年に設立され、会員制クラブである「The Royal and Ancient Golf Club of St Andrews」とは別の組織です。

アルバトロス

1ホールのスコアがパーより3打少ないこと。例えばパー5を2打、パー4を1打でホールアウトした場合です。英語圏でも「albatross」が使われ、特に米国では「double eagle（ダブルイーグル）」とも呼ばれます。

アンコック

バックスイングなどで作られた手首のコック（ヒンジ）が、ダウンスイングからインパクト付近にかけてほどけていく動き。ほどける時期や程度はスイングによって異なり、遅いほどよいと一律に決まるものではありません。

アンダーパー

パーよりも少ない打数でプレーすること。1ストローク少なければ「1アンダー・パー」、1ストローク多ければ「1オーバー・パー」と表します。

アンダーハンデ

プレイヤーのハンディキャップを適用して順位や勝敗を決める競技の通称。「アンダーハンディキャップ」ともいいます。現在のWHSでは、ハンディキャップインデックスからコースハンディキャップやプレーイングハンディキャップを求め、競技形式に応じてネットスコアなどを算出します。

アンダーリペア

修理地（Ground Under Repair）のこと。一般に青杭や白線などで示されます。球が修理地にある場合や、修理地が意図するスタンス、スイング区域の障害となる場合は、規則に従って罰なしの救済を受けられることがあります。

アンジュレーション

コースやパッティンググリーンにある地面の起伏やうねりのこと。傾斜の向きや大きさは、ショットのライや球の転がりに影響します。「アンジュレーション」とも表記され、どちらも日本のゴルフ用語として使われています。

アンプレヤブル

プレーヤーが自分の球をそのままではプレーできないと判断すること。他の人への宣言は必要ありません。ペナルティーエリア以外では、1罰打でストロークと距離の救済、後方線上の救済、または球の箇所を基点とする2クラブレンジス以内のラテラル救済を選べます。球がバンカー内にある場合、後方線上またはラテラル救済の救済エリアはそのバンカー内でなければなりません。合計2罰打で、バンカー外の後方線上に救済を受けることもできます。

足

ボールのコロがりのこと。ランとも言う。「足を使って寄せる」といえば、コロがして寄せるという意味。

異常なコース状態

動物の穴、修理地、動かさない障害物、テンポラリー・ウォーターの4つをまとめた規則用語です。球や意図するスタンス、スイング区域に障害がある場合、規則に従って罰なしの救済を受けられることがあります。

インコース

ゴルフコース全18ホールの後半、10~18番ホールの総称。インはカミング・インからきた言葉。

インパクト

クラブのフェースがボールに当たる瞬間のこと

インプレー

規則に基づいてプレー中となっている球の状態。通常、ティーイングエリア内からストロークした球は直ちにインプレーとなります。その球がホールに入る、紛失またはアウトオブバウンズとなる、拾い上げられる、あるいは別の球に取り替えられるなどしてインプレーでなくなるまで、その状態が続きます。

イーグル

1ホールのスコアがパーより2打少ないこと。例えば、パー5を3打、パー4を2打、パー3を1打でホールアウトした場合は、パー3のホールでは、ホールインワンがイーグルに当たります。

イップス

パッティングなどで、意図に反して手や腕が震える、急に動く、固まるなどして、動作を円滑に行いにくくなる症状の通称。一時的な緊張だけを指すものではなく、原因の捉え方も一様ではありません。パッティングのほか、アプローチやショットなどで起こることもあります。

糸巻きボール

【旧来のボール構造】芯の周囲に細いゴム糸などを巻き、その外側をカバーで覆ったゴルフボール。かつて広く使われましたが、現在はソリッドコアを使った多層構造のボールが主流です。

イーブン

スコアや勝敗に差がない状態を表す言葉。ストロークプレーの「イーブンパー」は通算スコアがパーと同じ状態、マッチプレーでは両サイドがタイの状態を指します。「オールスクエア」などの通称も使われます。

インサイドアウト

ダウンスイングで、クラブヘッドが目標線の内側から球へ向かい、インパクト後は外側へ抜けるクラブ軌道。右打ちではクラブパスが目標線に対して右方向となる軌道を指します。球の打ち出し方向や曲がり方は軌道だけで決まらず、フェース向き、フェースと軌道の関係、打点などによって変わります。

インターロッキンググリップ

クラブの握り方で、右利きの場合、右手の小指と左手の人差し指をからめるグリップ。

インターバル

時間の間隔を表す一般用語。ゴルフでは、組と組のスタート間隔、プレー中の待ち時間、ホール間の移動時間などを指して使われます。正式な規則用語ではなく、何を指すかは文脈によって異なります。

インテンショナル

意図的にボールを曲げてスライスやフックなどの球を打つこと。

インドア

屋内を意味する言葉。ゴルフでは、屋内練習場、シミュレーター、弾道測定器などを利用して練習やプレーを行う施設を「インドアゴルフ」「インドア練習場」と呼びます。

インチ

ヤード・ポンド法による長さの単位。1インチ=2.54cm。1フィート(30.48cm)を12等分した長さが1インチとされた。

インランドコース

内陸に造られたコースのこと。海岸に造られたリンクスに対する言葉。

IP（インターセクション・ポイント）

【通称・日本独自の表現】日本のゴルフ場で、コース設計・造成上の折れ点や、ティーイングエリアから一定距離の基準点を指して使われる言葉です。語源は測量用語の「Intersection Point（交点）」とされます。国際共通のゴルフ規則用語ではなく、ランディングエリアなどを指して使われる場合もあるため、位置や意味はゴルフ場によって異なります。

インパクトロフト

インパクト時にクラブフェースが実際に持っているロフト角。弾道計測では「ダイナミックロフト」と呼ばれることもあります。クラブ本来のロフト角だけでなく、シャフトの傾き、フェース向き、スイングなどによって変化し、打ち出し角やスピン量に影響します。

ウッド

大きく丸みのあるヘッドを持ち、主に長い距離を打つためのクラブの分類。かつてはパーシモンなどの木で作られていましたが、現在はチタン、ステンレス、カーボンなどを組み合わせたヘッドが一般的です。ドライバーやフェアウェイウッドがあります。

ウィークグリップ

クラブの握り方の一つ。右打ちでは、左手をニュートラルグリップより左方向へ回して握る形を指し、構えたときに左手のこぶしが見える数が少なくなる傾向があります。球筋への影響はフェース向き、クラブ軌道、手首の動きなどによって異なり、必ずスライスになるわけではありません。左打ちでは左右が逆になります。

ウイニングショット

名前のとおり勝利を決める1打のこと。

ウィンターグリーン

冬季に使用するグリーンを指す通称。2グリーンのコースで季節に応じて使い分ける場合などに使われます。芝種や使用時期、グリーンのは数は地域やゴルフ場によって異なり、冬用が必ずベント芝、夏用が必ず高麗芝とは限りません。

ウィンタールール

冬季や悪天候でコース状態が良くないときに採用されるローカルルールを指す通称。多くの場合、ブリファードライなどを意味しますが、独立した一律の規則ではありません。適用区域や球を動かせる範囲などは、その日のローカルルールを確認します。

ウェッジ

比較的大きなロフト角を持ち、短い距離のコントロールショット、アプローチ、バンカーショットなどに使うアイアンクラブ。ピッチングウェッジ、アプローチウェッジ、サンドウェッジ、ロブウェッジなどがあり、ロフト角、長さ、重量、バウンス角は製品によって異なります。

ウェートシフト

スイング中に、左右の足にかかる体重や地面への圧力の配分が変化すること。右打ちではバックスイングで右足側、ダウンスイング以降で左足側の割合が増える例が多く見られますが、移動量やタイミングはスイングや打ち方によって異なります。

ウェルアウト

難しいバンカーから1発で脱出したときに使われる賞賛の言葉。よく出たという意味。林から脱出したときにも使われる。

ウェイストエリア

コース内の自然の地表を残した未整備区域や、砂地などを指す通称で、ゴルフ規則の定義語ではありません。多くの場合はジェネラルエリアとして扱われ、バンカーでなければクラブを地面につけられますが、委員会の指定やローカルルールを確認します。

ウォーターショット

水の中のボールを打つこと。

動いた球

球が元の箇所を離れて別の箇所に止まり、その動きを肉眼で確認できる場合、その球は「動いた」こととなります。プレーヤーが自分の止まっている球を動かした場合は原則として1罰打でリプレイスしますが、捜索中に偶然動かした場合など、罰がない例外もあります。

動かせない障害物

合理的な努力をしても簡単には動かせない人工物や、委員会が動かせない障害物と定めた物をいいます。球や意図するスタンス、スイング区域への障害がある場合は、規則に従って罰なしの救済を受けられることがあります。

動かせる障害物

合理的な努力で、物やコースを損傷させずに動かせる人工物です。コース上・コース外のどこでも取り除けます。球が障害物の中や上でない状態で、取り除いたことによって球が動いた場合は、罰なしで元の箇所にリプレースします。球が障害物の中や上にある場合は、規則15.2aに従い、球があったコースエリアに応じてドロップまたはプレースします。

打ち上げ

球を打つ場所より目標地点が高い状況。一般に平地より実効的なプレー距離が長くなりますが、必要なクラブは高低差、風、気温、球筋、ライなどを考慮して選びます。

打ち下ろし

球を打つ場所より目標地点が低い状況。一般に平地より実効的なプレー距離が短くなりますが、必要なクラブは高低差、風、気温、球筋、ライなどを考慮して選びます。

打ち込み

前の組や隣のホールにボールを打ち込んでしまうこと。あるいは練習場で熱心にボールを打つことをいう。

打ち込む

ボールをダウンプローにとらえることをいう。すくい打ちの反対。

エアーガン

ゴルフシューズや衣服に付いた芝や土を、圧縮空気で吹き飛ばすための清掃器具。設置されている場合は、クラブハウスへ入る前に汚れを落として利用するのがマナーです。使用時は周囲の人に空気や汚れを向けないよう注意します。

エアーショット

空振りのこと。

エアレーション

芝地に穴を開けて土壌の通気性や排水性を改善し、根の生育を促すコース管理作業。パッティンググリーンのほか、フェアウェイなどでも行われます。実施時期や方法は、芝種、気候、コースの状態によって異なります。「エアレーションホール」と呼ばれる作業跡が残ることがあります。

エキストラスティッフ

クラブのシャフトの硬さを示すフレックス表記の一つで、一般にXと表示されます。Sより硬い区分として扱われますが、スイング中にはしなり、硬さの基準もメーカーや製品によって異なります。

エキストラホール

プロトーナメントなどで規定のホール数で決着がつかない場合に行われる、追加のホールのこと。

エクスプロージョン

バンカーでボールを直接打たず、砂の爆発を利用してボールを脱出させるショットのこと。

エージシュート

18ホールを自分の年齢と同じ、または年齢より少ないスコアでプレーすること。一般に高年齢のゴルファーにとって価値のある達成として知られています。

エース

ホールインワンのこと。

エスシャフト

シャフトの硬さを示すフレックス表記の一つで、一般にSはスティッフを表します。R、S、X、L、Aなどの記号が使われますが、硬さの基準はメーカーや製品ごとに異なります。性別だけで選ばず、スイングや振りやすさに合わせて選ぶことが大切です。

エチケット

安全への配慮、プレーのペース、他のプレーヤーへの思いやり、コース保護など、ゴルフを気持ちよく楽しむための作法です。現行規則では主に規則1.2「プレーヤーの行動基準」で、ゲームの精神や行動を扱います。

エッジ

境目や縁を指す言葉。グリーンエッジはパッティンググリーンとその周囲との境目付近、バンカーエッジはバンカーの縁を指します。クラブでは、フェースとソール前方の境界をリーディングエッジ、ソール後方の縁をトレーリングエッジと呼びます。

エプロン

グリーン回りなどで短くカットされている(芝が刈り込んである)部分のこと。

L字パター

上から見たときに、シャフトと細身のヘッドがL字形に見えるパター。アイアンに近い感覚で構えやすく、操作性を重視するプレーヤーに好まれることがあります。打感やミスへの強さは、形状、重心設計、慣性モーメントなどによって異なります。

LPGA

米国の女子プロゴルフ協会、および同協会が運営するツアーを指します。日本の女子プロゴルフ協会・ツアーは「JLPGA」と区別して表記するのが一般的です。

援助

ストローク中、キャディーや他人から物理的な助けを受けたり、日差し、雨、風などを防ぐ目的で人や物を故意に配置した状態でストロークしてはなりません。例えば、キャディーに傘を差してもらったまま打つと一般の罰です。プレーヤー自身が傘を持つなど、自分で防護することは認められます。

エントリー

競技会等への出場申込みをすること。

置きにいく

飛距離を押さえて、狙ったポジションにボールを運ぶこと。

OK(オーケー)

マッチプレーで、相手の次のストローク、ホール、またはマッチをコンシードすることの通称。コンシードは球がグリーン上にある場合に限らず行うことができ、明確に伝えた後は拒否したり取り消したりできません。ストロークプレーでは認められません。

オナラブル

【英語表現】英語の「honourable」で、「名誉ある」「立派な」などを意味します。名誉会員は英語で「honorary member」であり、「honourable member」とは区別します。現行のゴルフ規則用語ではありません。

オーバー

球が目標を超えて飛びすぎる。または、目標スコアより多く叩くこと。

オーバークラビング

必要とするクラブよりも大きなクラブで打ってしまうこと。

オーバースイング

バックスイングが、プレーヤーの意図や適正と考える範囲を超えて大きくなる状態の通称。シャフトが地面と平行な位置を越えたことだけで一律に決まるものではなく、体の柔軟性、クラブの位置、スイングの再現性などを含めて判断されます。

オーバーパー

規定打数よりも多いスコアでまわること。少ないスコアでまわればアンダーパー。

オーバーラッピンググリップ

右手の小指(右利きの場合)を左手の人差し指と中指の間に重ねるクラブの握り方。別名バードン・グリップという。

OB(オービー)

アウト・オブ・バウンズの略

オフィシャル

「公式の」「正式な」という意味。ゴルフ競技では、競技委員、レフェリー、運営役員などをまとめて指す通称として使われることがあります。担当する権限や役割は競技によって異なります。また、公式ハンディキャップを指して使われる場合もあります。

オフィシャルハンディキャップ

公式に認められたハンディキャップの通称。現在はワールドハンディキャップシステム（WHS）に基づく「ハンディキャップインデックス」を使用します。日本ではJGAがJ-sysを通じて運用し、「JGA公式ハンディキャップ」と案内しています。

オブザーバー

【旧規則用語】以前の規則で、審判員を補佐し、規則違反などを報告するために委員会が選任した人を指した用語です。現行規則の定義には含まれていません。

オフセット

クラブを基準となる姿勢で置いたとき、フェース下部のリーディングエッジがシャフト軸線より後方にある量、またはその設計。グースネックはホーゼル形状の通称で、オフセットを設けるために使われることがあります。両者は厳密には同じ意味ではありません。

オープンスタンス

右打ちの場合、両足を結んだ線や体の向きが目標線より左を向く構え。反対に目標線より右を向く構えをクローズスタンス、目標線とほぼ平行な構えをスクエアスタンスと呼びます。左打ちでは左右が逆になります。

オールクリアベル

ブラインドホールなどで、前方のプレーヤーが安全な場所まで進み、後続組が打てる状態になったことを知らせるための鐘。設置の有無や合図の方法はゴルフ場によって異なります。

オールスクエア

【通称】マッチプレーで両サイドの勝ちホール数に差がなく、タイとなっている状態を表す言葉です。ラウンド途中にも、決められたホールを終えた時点の同点にも使われます。現行規則では主に「タイ (tied)」と表現します。

オーバードライブ

【通称・和製英語】他のプレーヤーより遠くへ球を飛ばすこと。英語では「outdrive」と表現します。日本のゴルフ会話では「オーバードライブ」も使われます。

オープンフェース

クラブフェースが、基準となる方向に対して開いている状態。目標線を基準とする場合、右打ちではフェースが目標線より右、左打ちでは左を向く状態を指します。弾道を説明するときは、目標線に対するフェース向きと、クラブ軌道に対するフェース向きを区別します。

オナー

ティーイングエリアから最初にプレーする権利を持つプレーヤー。最初のホールは委員会が定めた組合せ順に従い、定めがなければ合意または無作為で決めます。その後、マッチプレーでは前のホールを勝った側、ストロークプレーでは前のホールのグロススコアが最少のプレーヤーがオナーとなります。ホールがタイの場合は前のティーイングエリアでの順番を維持します。

オン

グリーンオンの略。例:アプローチでうまくグリーンにのったときに「ナイスオン!」

【力行】

外的影響

プレーヤーの球や用具、コースに影響を及ぼす可能性がある人、動物、物などのうち、規則で定める対象をいいます。プレーヤー本人、そのキャディー、パートナー、マッチプレーの相手やそれらのキャディーなどは含まれず、風や水などの自然の力も含まれません。外的影響が止まっている球を動かしたことが分かっている、または事実上確実な場合は、罰なしで元の箇所に戻します。

カウントバック

同スコアの順位を決める方法の通称。後半9ホール、後半6ホール、後半3ホール、最終ホールなどのスコアを順に比較する方法や、最終ホールからさかのぼって比較する方法などがあります。実際の方法は競技規定で定めます。

カット

複数の意味で使われる言葉。競技では、途中ラウンド終了時に成績上位者などへ出場者を絞る予選カットを指します。ショットでは、右打ちの場合に球を左から右へ曲げるカットショットを指すことがあります。球の曲がり方は、主にインパクト時のフェース向きとクラブ軌道の関係によって生じます。

カップ

パッティンググリーン上の「ホール」を指す一般的な呼び方。規則上、ホールの直径は108ミリメートル（4.25インチ）、深さは少なくとも101.6ミリメートル（4インチ）です。穴の内側に入れる容器をカップと呼ぶ場合もあり、ホールの位置は委員会が定めます。

カート

キャディーバッグを載せて運ぶ手引き式・電動式の運搬車や、プレーヤーが乗車してコースを移動する車両のこと。手引きカート、電動カート、電磁誘導カート、2人乗りや4・5人乗りの乗用カートなどがあります。

カート道路

ゴルフカートが通行するために設けられた道路。人工的に舗装されたものは通常「動かさない障害物」として扱われます。球が道路上にある場合や、道路が意図するスタンス・スイング区域の障害となる場合、原則として完全な救済のニヤレストポイントを基点とした1クラブレンジス以内の救済エリアにドロップして、罰なしの救済を受けることができます。ただし、球がペナルティーエリアにある場合などはこの救済を受けられません。

ガードバンカー

グリーンのマわりに造られたバンカーのこと。

カーボンシャフト

主にカーボン繊維を樹脂で固めた複合材料で作られるシャフト。グラファイトシャフト、カーボングラファイトシャフトとも呼ばれます。軽量なものから重量のあるものまであり、硬さ、ねじれ、しなり方は製品によって異なります。

カマボコ型パター

ヘッドに丸みと奥行きがあり、かまぼこのように見えるパターを指した日本の旧来の通称。マレット型に近い形状を指すことが多いものの、正式な分類名ではなく、すべてのマレット型パターと同じ意味ではありません。

雷の危険

プレーヤーが合理的に落雷の危険があると考えた場合は、自らプレーを中断できます。その場合は、できるだけ早く委員会へ報告します。委員会が切迫した危険のため即時中断を知らせた場合は、直ちにプレーを止めなければなりません。

噛む(かむ)

球とクラブフェースの間に芝、砂、水分などが挟まることを指す通称。ラフからのショットなどでスピン量、打ち出し、飛距離に影響することがあります。日本のゴルフ会話では、クラブが球の手前の地面に入り、軽くダフることを指して使う場合もあります。

カラー

パッティンググリーンを囲むように芝を短く刈り込んだ部分。規則上はパッティンググリーンではなく、通常はジェネラルエリアです。カラーにあるという理由だけで球を拾い上げることはできませんが、別の規則で認められる場合は拾い上げや救済を受けられます。

空振り(からぶり)

ボールを打つ意思でスイングして、結果としてクラブがボールに当たらなかったこと。打つ意思が無い素振りとは異なるので1打に数える。

刈り草(かりくさ)

刈り取られた芝。通常はルースインペディメントとして扱われます。ただし、後で取り除くために積み上げられた刈り草は、標示がなくても修理地として扱われます。

黄色のペナルティーエリア

黄杭または黄線で定められたペナルティーエリアです。区域内の球は、罰なしでそのままプレーできます。また、1罰打でストロークと距離の救済、または後方線上の救済を選ぶことができます。赤のペナルティーエリアで認められるラテラル救済は選べません。

利き目

左右の目のうち、物の位置や方向を判断するとき優位に働く目。ゴルフでは構えや目標の見え方を確認する際の参考にされることがありますが、利き目だけで構え方やスイングが決まるわけではありません。

キック

英語の意味は蹴ることだが、ゴルフではボールが地面に当たって弾んでコロがること。「ナイスキック」といえば斜面にボールが当たってフェアウェイに出てきた時などに使う。

キックポイント

シャフトがスイング中にしなる位置や、曲げ剛性の分布を表すために使われる通称です。手元調子、中調子、先調子などに分けられ、振り心地や球の上がり方に影響します。セット内のすべての番手を同じキックポイントにするという規則はありません。

規定打数

各ホールに設定された基準となる打数で、「パー」と呼ばれます。一般にパー3、パー4、パー5などがあり、距離だけでなく高低差、障害、通常のプレー難度なども考慮して設定されます。

ギブ

【通称】マッチプレーで、相手の次のストローク、ホール、またはマッチをコンシードすること。「OK」とも呼ばれます。次のストロークのコンシードは、相手はそのストロークを行う前であれば、直前のストロークによる球が動いている間にも行えます。明確に伝えたコンシードは最終で、拒否したり撤回したりできません。

ギブアップ

【通称】ホールの途中でプレーをやめること。マッチプレーでは、プレーヤーは相手にそのホールをコンシードできます。通常のストロークプレーではホールアウトが必要ですが、最大スコア方式や委員会が定めた競技条件では、所定の最大スコアで終了できる場合があります。「パーの3倍」は一律のゴルフ規則ではありません。

逆目

パットやアプローチで球を転がす方向に対して、芝が反対向きに寝ている状態。順目より芝の抵抗が大きく、一般に球の転がりが遅くなる傾向があります。反対は「順目」です。見え方は光の方向、芝種、刈り方などによっても変わります。

キャッシャー

ゴルフ場のフロントにある、料金を支払う場所。

キャッシュイン・パター

【旧来の通称】ヘッドの中央付近にシャフトが取り付けられた、T字形などのパターを指す呼び方。現在は形状に応じてセンターシャフトパターなどと表現するのが一般的です。

キャディー

ラウンド中にプレーヤーのクラブを持つ、運ぶ、扱うほか、規則で認められる範囲でアドバイスや援助をする人です。プレーヤーは原則として一度に1人のキャディーだけを使えます。パートナーがいるプレー形式では、プレーヤーはパートナーやそのキャディーからもアドバイスを受けられます。

キャディーバッグ

クラブ、ボール、そのほかのゴルフ用品を入れて運ぶバッグ。キャディバッグとも表記されます。

キャディマスター

スタートの管理などをする人のこと。この人がいる場所をマスター室という。

キャビティバック

アイアンのバックフェースをくぼませ、ヘッド外周などへ重量を配分した構造。一般に慣性モーメントを高め、打点が芯から外れたときの飛距離や方向のばらつきを抑えることを狙った設計です。

キャリー

打ったボールが地上に落下した地点までの距離をいう。転がった距離はランという。

キャロウェイ方式

アメリカのティーチングプロのライオネル・キャロウェイという人が考案したハンディキャップの出し方。グロススコアと最悪ホールスコアに応じて、査定表でハンディキャップを決める方法。

ギャラリー

ゴルフトーナメントを会場で観戦する人たちを指す通称。安全確保や競技進行のため、ロープや係員の案内に従って観戦します。

丘陵コース

丘陵地帯に造られたゴルフ場のこと。

競技

英語にするとコンペティションといい、略してコンペ。仲間うちでやるのをプライベートコンペ。自由に参加できるのがオープンコンペ。倶楽部でやるのは倶楽部競技という。

競技委員

競技を管理する委員のこと。

競技者

【一般用語・旧規則用語】競技に参加する人を一般的に指す言葉です。旧規則ではストロークプレーを行う人を指す規則用語でしたが、現行規則では基本的に「プレーヤー」と表現します。

切り返し

バックスイングからダウンスイングへ移る局面や、その動作のこと。体、腕、クラブが動き出す順序やクラブ軌道は、スイング理論やプレーヤーによって異なり、構えた形をそのまま再現することだけが唯一の基準ではありません。

救済

規則で認められた方法により、球を拾い上げてリプレース、プレース、または救済エリアにドロップしてプレーを続けることです。罰なしの救済と、1罰打などを伴う救済があります。救済を受けるときは、基点・救済エリア・ホールに近づかない条件を確認します。

黄色杭

黄色のペナルティーエリアの縁を示すために使用される杭。赤杭は赤のペナルティーエリアを示します。

クォータースイング

フルスイングより振り幅を大幅に小さくし、距離をコントロールするスイングの通称です。一般には4分の1程度の振り幅を指しますが、厳密な基準はありません。4分の3程度の振り幅は「スリークォータースイング」と呼びます。

クオリファイ

予選を通過すること。

グースネック

クラブのネックやホーゼルが、ガチョウの首のように曲がった形状の通称。オフセットを設けるために用いられることがありますが、形状を指す「グースネック」と、フェースとシャフト軸の位置関係を指す「オフセット」は厳密には同じ意味ではありません。

クラウン

クラブヘッドの上面部分のこと

グラスバンカー

バンカーのようにくぼんでいても砂ではなく芝で覆われた区域の通称です。規則上はバンカーではなく、通常はジェネラルエリアとして扱います。

クラブ

ゴルフの道具としてのクラブと、会員の組織体としてのクラブの両方の意味をもつ。

グラファイトシャフト

カーボン・シャフトと言ったりカーボン・グラファイト・シャフトとも言ったりする。カーボン繊維とエポキシ樹脂などを複合した素材で作られている。

クラブハウス

ゴルフコースに併設されている施設・建物。プレーヤーのためのロッカー、レストラン、コンペルーム、売店などがある。

クラブフェース

クラブヘッドの打球面のこと。

クラブヘッド

クラブはグリップ、シャフト、ヘッドから構成され、シャフトの先についている打球部分全体をヘッドという。

クラブレングス

救済エリアなどを測る単位です。プレーヤーがラウンド中に持っている14本以内のクラブのうち、パターを除く最も長いクラブの長さを1クラブレングスとします。実際にその場で使うクラブの長さではありません。

グランドスラム

男子ゴルフの4大メジャーであるマスターズ、全米プロゴルフ選手権、全米オープン、全英オープンのすべてに優勝すること。同じ年に4大会すべてに優勝することを「年間グランドスラム」、時期を問わず生涯で4大会すべてに優勝することを「キャリアグランドスラム」と呼びます。

クリーク

5番ウッドを表す「cleek」と、小川や水路を表す「creek」の2つの意味があります。水路は規則上、通常はペナルティーエリアとして扱われますが、コースの表示やローカルルールを確認します。

グリップ

クラブを握る部分のこと。またはクラブの握り方のこと。

グリップエンド

クラブの握りの部分の末端。

グリップスピード

スイング中にクラブのグリップ部分や手元が動く速さを指す言葉。ヘッドスピードなどと組み合わせてスイングやクラブ選びの参考にする場合がありますが、測定位置や算出方法は機器、メーカー、サービスによって異なります。

クリネックスショット

【旧来の通称】短いアプローチで、サンドウェッジなどを使って球を柔らかく高めに上げ、グリーンへ落とすショット。ティッシュペーパーがゆっくり落ちる様子になぞらえた日本独自の呼び方です。現在はロブショットやソフトピッチなどと表現する方が一般的です。

グリーン

プレー中のホールで、パッティングのために特別に整備された区域。規則上は「パッティンググリーン」といいます。球の一部がその区域に触れている場合、その球はパッティンググリーン上にあります。プレーヤーは球の箇所をマークした後、球を拾い上げて拭くことができます。

グリーンキーパー

パッティンググリーンを含むゴルフコース全体の芝、樹木、バンカー、散水設備などを管理する担当者。現在は「コース管理スタッフ」や、管理責任者を「コース管理責任者」「グリーンキーパー」「コーススーパーインテンドント」などと呼びます。役職名はゴルフ場によって異なります。

グリーンジャケット

マスターズの優勝者にその証として「グリーンジャケット(thegreenjacket)」が贈られる。

グリーンフィー

ゴルフコースを利用してプレーするための料金を指す一般的な言葉。カート代、キャディー代、諸経費などを別に設定する場合と、プレー料金に含める場合があります。会員とビジターの料金区分や名称もゴルフ場によって異なります。

グリーンフォーク

パッティンググリーンにできたピッチマークなど、規則上修復が認められる損傷を直すための道具。自分の球が作ったピッチマークを適切な方法で修復することは大切なマナーです。自然な凹凸、通常の芝の傷み、エアレーションホールなど、規則上修復できないものもあります。

グレイン

グリーンの芝目のこと。

クレーム

【通称】マッチプレーで規則の適用や相手の行為に疑問があるとき、裁定を求めることを指して使われる言葉です。現行規則では「裁定の要請」として扱われ、要請できる時期などの要件があります。

グロス

ハンディキャップを適用する前の実際のスコア。プレーしたストローク数に罰打を加えたホールスコアやラウンドの合計を指します。ハンディキャップを適用した後のスコアは「ネット」と呼ばれます。

クロスウィンド

目標方向や球の飛ぶ方向を横切るように吹く風のこと。横風、サイドウィンドとも呼ばれます。追い風はフォロー、向かい風はアゲインストと呼ばれることがあります。

クロスハンドグリップ

主にパッティングで、右打ちの場合は左手を右手より下にして握る方法。レフトハンドローとも呼ばれます。手首の動きを抑えやすいと感じるプレーヤーもいますが、方向性や距離感への影響は握り方やプレーヤーによって異なります。左打ちでは左右が逆になります。

クローズスタンス

右打ちの場合、両足を結んだ線や体の向きが目標線より右を向く構え。左打ちでは左右が逆になります。ドロースタンスの球を打つ目的などで使われることがありますが、球筋はスタンスだけで決まらず、フェース向きやクラブ軌道などにも左右されます。反対はオープンスタンスです。

クロスバンカー

フェアウェイを横切るように作られたバンカー。攻略ルートにクロスする形のものをいう。これ以外のフェアウェイの横に造られたものは、サイドバンカーという。

グローブ

ショットを打つ際に着用する手袋。右利きの場合左手につけるのが一般的。

KGA

関東ゴルフ連盟のこと。

KGU

関西ゴルフ連盟のこと。

月例競技

毎月定期的に行なわれる競技のこと。

ゲーム

ゴルフは、各ホールのティーイングエリアから規則に従って球をプレーし、1回または連続するストロークでホールに入れるゲームです。マッチプレーやストロークプレーなど、複数のプレー形式があります。

研修会

ゴルフ技術の向上、規則の学習、競技や会員同士の親睦などを目的に行われる会。内容や参加条件はゴルフ場や団体によって異なります。研修会への参加や成績だけで、必ずプロテストの受験資格が得られるわけではありません。

研修生

プロゴルファーやゴルフ指導者を目指し、ゴルフ場・練習場などで勤務しながら技術や知識を学ぶ人を指す通称。現在は大学、育成組織、QT、各団体の資格認定などプロを目指す経路が多様化しており、明確な共通資格を示す言葉ではありません。

合意の反則

2人以上のプレーヤーが、適用されると知っている規則や罰を故意に無視することに合意すること。関係するプレーヤーのいずれかがラウンドを開始した後に合意した場合は、実際にその合意どおり行動していなくても、関係するプレーヤーは失格となります。

高原コース

標高の高い高原や山間部に造られたゴルフコース。標高が高い場所では空気密度が低くなるため、同じ条件でも球のキャリーが伸びる傾向があります。グリーンの芝目や転がりは、周囲の山そのものではなく、芝種、傾斜、排水、刈り方、管理状態などの影響を受けます。

高麗グリーン

高麗芝などの暖地型芝を使用したパッティンググリーン。芝目が球の転がりに影響しやすい場合がありますが、速さや重さは芝種だけで決まらず、刈高、季節、天候、管理状態などによって変わります。

後方線上の救済

ホールと規則で定める基準点（球の箇所やペナルティーエリアの縁を最後に横切った地点など）を結ぶ基準線の後方で救済を受ける方法です。球は基準線上にドロップし、最初に地面に触れた地点から全方向1クラブレングス以内が救済エリアとなります。ただし、基準点よりホールに近づかず、球が最初に地面に触れた地点と同じコースエリアでなければなりません。

誤球

自分のインプレーの球、暫定球、または規則によりプレー中の第2の球以外の球をプレーすること。マッチプレーではホールの負けです。ストロークプレーでは2罰打で、その球でのストロークは数えず、元の球をプレーするか規則に従って救済を受けて誤りを訂正します。定められた期限までに訂正しなければ失格です。

誤所からのプレー

規則で求められる場所とは異なる場所から球をプレーすること。違反は一般の罰で、マッチプレーではホールの負け、ストロークプレーでは2罰打です。ストロークプレーで重大な違反となる場合は、規則に従って誤りを訂正しなければなりません。

コース

委員会が定めた境界の内側にあるプレー区域全体。規則上、コースはティーイングエリア、ペナルティーエリア、バンカー、プレー中のホールのパッティンググリーン、ジェネラルエリアの5つの区域で構成されます。プレー禁止区域もコース内に存在することがあります。

コースメンテナンス

コース管理のこと。

コースレーティング（コースレート）

スクラッチプレーヤーが通常のコース状態と天候のもとでプレーした場合に期待されるスコアを示す評価値です。現在はワールドハンディキャップシステム（WHS）のコースレーティングとして使われます。「コースレート」は通称として使われることがあります。

コック

バックスイングのときに手首を曲げること。テークバックで早くコックをすることをアーリーコックという。曲げた手首を伸ばすことをアンコックという。

誤報

【旧規則用語・通称】マッチプレーで、相手に誤ったハンディキャップやストローク数を伝えることを指した表現。現行規則では、誤ったストローク数を定められた期限までに訂正しなければ原則として一般の罰となります。高すぎるハンディキャップを申告し、それが受け渡すストローク数に影響した場合は失格となり、低すぎる場合はその低いハンディキャップを使います。

コ・リーダー

トーナメントでトップタイにつけていること。

ゴルフアーキテクト

ゴルフコースの設計家のことをいう。

転がり

ボールがコースやグリーンを転がること。ランともいい、英語ではロール。

小技

グリーンまわりのアプローチショットのこと。

コンシード

マッチプレーで、相手の次のストローク、ホール、またはマッチを認めること。明確に伝えたコンシードは最終で、拒否したり取り消したりできません。ストロークプレーではコンシードできません。

コンセントレーション

精神集中のこと。ゴルフは自分で行動を起こしてボールを打つスポーツ。したがって集中力が必要とされる。

コントロール

ボールを狙ったところに打つことで、コントロールショットというと、距離よりも方向性重視のショットをいう。

コンドル

規定打数(パー)より1打少ないスコアがバーディ。2打少ないのがイーグル。3打少ないのはアルバトロス。4打少ない場合(例えば、パー5でのホールインワン)を「コンドル(Condor)」という。ちなみに、アルバトロスが別名「ダブルイーグル」と呼ばれるように、コンドルは「ダブルアルバトロス」、あるいは「トリプルイーグル」とも呼ばれる。

コンパクション

グリーンやフェアウェイなどの土壌の締まり具合や、表面の硬さを評価するときに使われる言葉。測定器、単位、測定方法によって数値の意味が異なるため、異なる方法で測った数値を単純に比較することはできません。

コンパクトスイング

最小限の動きにまとめたスイング。

コンプレッション

ゴルフボールのつぶれやすさや硬さの傾向を表す指標。一般に数値が低いほどつぶれやすく、数値が高いほど硬い傾向がありますが、測定方法や表示基準がメーカー間で完全に統一されているわけではないため、異なるブランドの数値を単純に比較できない場合があります。

コンペティション

競技会のことで、略してコンペ。仲間内でやるのをプライベートコンペ。

コンペティター

【旧規則用語】以前のゴルフ規則で、主にストロークプレーを行う競技者を指した表現です。現行規則では基本的に「プレーヤー (player)」と表現します。

コンポジットシャフト

複数の素材や異なる特性の層を組み合わせで作られたシャフト。カーボン繊維の種類や配置を変えたり、金属繊維などを組み合わせたりすることで、重量、剛性、ねじれ、しなり方などを設計します。特定の素材の組み合わせだけを指すものではありません。

【サ行】

ジェネラルエリア

ティーイングエリア、すべてのペナルティーエリア、すべてのバンカー、プレー中のホールのパッティンググリーンを除いた、コース上のすべての区域です。以前の「スルーザグリーン」に近い用語ですが、範囲の考え方は現行規則で確認します。

裁定

規則に関する疑問や争点について、レフェリーまたは委員会が事実関係を確認し、適用する規則や処置を判断すること。プレーヤーは、判断に必要な事実を正確に伝える必要があります。現在の規則では「ルーリング」と表現されることもあります。

サドル

ゴルフ用語ではグリーンの起伏(アンデュレーション)の窪んだ部分ということ。

サイドスピン

球が左右へ曲がる回転を便宜的に表す通称。実際の球は、バックスピンと横回転が別々にかかるというより、回転軸が左右に傾くことでドロー、フェード、フック、スライスなどの曲がりが生じます。回転軸の傾きは、主にインパクト時のフェース向きとクラブ軌道の関係、打点などによって決まります。

サイドバンカー

フェアウェイの側方に配置されたバンカーの通称。フェアウェイ付近にあるバンカーの一種ですが、フェアウェイを横切るように配置されたクロスバンカーとは区別して使われます。

サイン

スコアカードなどに自署すること。競技では、ラウンド終了後にマーカが各ホールのスコアを証明し、プレーヤーも内容を確認してスコアを証明したうえで委員会へ提出します。証明の方法は、委員会が定める手続きに従います。

再ドロップ

正しい方法でドロップした球が救済エリアの外に止まった場合などに、もう一度ドロップすることです。現在は「2クラブレングス以上転がったか」ではなく、所定の救済エリアに止まったかで判断します。2回目も救済エリアの外に止まった場合は、2回目のドロップで球が最初に地面に触れた箇所にプレーします。

竿イチ

ゴルフのベットのの方法のひとつ。旗竿の長さ以上のパットを1発でカップインした場合に同伴プレーヤーからポイントをもらうやり方で、バンカーから寄せて1パットの砂イチと組合わせて行なうことが多い。

ザックリ

ゴルフにおける日本語用語で形容詞がそのまま言葉になったもの。ショットの際にひどくダフること。アプローチショットでクラブがボールの手前に入り、ボールを著しくショートさせること。

サスペンデッド

日没、落雷、荒天などにより、委員会がプレーを一時的に中断した状態。委員会の指示に従い、中断した箇所から同日または後日にプレーを再開します。英語の「suspended」に由来する通称です。

サドンデス

プレーオフ(トップスコアが同じでプレーを終了した場合の優勝決定戦)の決着の方法のひとつ。どちらか一方が相手よりいいスコアでホールを終了した時点で優勝が決まるというもの。

サービスホール

比較的良好なスコアを狙いやすいホールを指す通称。距離だけでなく、幅、障害物の配置、グリーンの形状や難度などによっても判断が変わり、共通の厳密な基準はありません。

サブグリーン

2グリーンで、その日に使用していないグリーンの通称。規則上は通常「目的外グリーン」として扱われます。球が目的外グリーンにある場合や、目的外グリーンが意図するスタンス・スイング区域の障害となる場合は、そのままプレーせず、規則に従って罰なしの救済を受けなければなりません。

暫定球

球がアウトオブバウンズ、またはペナルティーエリア以外で紛失した可能性がある場合に、時間節約のために暫定的にプレーする別の球です。プレーする前に「暫定球」と宣言するか、暫定的にプレーすることを明確に伝える必要があります。これを伝えずに直前のストロークを行った場所から別の球をプレーすると、その球はストロークと距離の罰のもとでインプレーの球となります。

サンデーゴルファー

休日や週末を中心に、ときどきゴルフを楽しむアマチュアゴルファーを指す通称。文字どおり日曜日だけプレーする人に限定されません。

サンドウェッジ

主にバンカーでの使用を目的としたクラブ。ロフトが大きくボールが上がりやすい。

サンドグリーン

芝の代わりに、砂や砂と油を混ぜた材料などで表面を造ったパッティンググリーン。芝の育成が難しい乾燥地などで用いられてきた形式です。砂を主体とした床土の上に芝を育成する通常のグリーンは「サンドベースグリーン」などと呼ばれ、サンドグリーンとは区別されます。

サンドボックス

昔のティアップは砂を湿らせて山を作り、その上にボールを乗せておこなっていたが、その名残り。現在では用途が変わって、目土入れになっている。

サンドフェースバンカー

グリーン側などの斜面まで砂が広がり、プレーヤー側から砂面が見える形状のバンカーを指すコース設計上の呼び方。形状にかかわらず、ゴルフ規則上は定義に該当する区域をバンカーとして扱います。

JGA

公益財団法人日本ゴルフ協会。日本オープンなどの競技、ハンディキャップ、規則や用具に関する情報提供などを行います。ゴルフ規則はR&AとUSGAが共同で制定し、解釈しています。

JPGA

【旧来の表記・通称】日本プロゴルフ協会を指して使われることがある表記です。公益社団法人日本プロゴルフ協会の現在の公式略称は「PGA」です。

ジガー

【通称】グリーン周りのチップショットを主な用途として設計されたクラブ。チッパーと呼ばれることもあり、規則上はアイアンクラブとして扱われます。用具規則に適合したものであれば競技でも使用できます。

識別マーク

自分の球を識別するために付ける印。規則では、プレーヤーは球に識別マークを付けるべきとされています。同じブランド、モデル、番号の球が近くに止まり、自分の球を確認できない場合は、その球が紛失扱いとなる場合があります。

軸

スイングする際の中心軸のこと。背骨から首筋を中心軸とする人や、バックスイングでは右足、ダウンスイングでは左足が軸になるという人もいる。

シーサイドコース

海岸や海の近くに造られたゴルフコースのこと。海風の影響を受けやすい傾向があります。シーサイドコースのすべてがリンクスというわけではなく、リンクスは海岸沿いの砂質土壌や自然の地形を生かした伝統的なコースを指します。

支柱

樹木を支えるための人工物。通常は動かさない障害物として扱われ、球や意図するスタンス、スイング区域に障害がある場合は規則に従って罰なしの救済を受けられます。委員会が別の扱いを定めている場合はローカルルールを確認します。

失格

重大な規則違反などにより、プレーヤーがそのマッチや競技の成績対象から除外されること。どの範囲で失格となるかは、適用される規則や競技の条件によって決まります。

シード権

プロゴルフツアーで、一定期間の競技出場資格や優先順位を得ること。対象順位や資格条件はツアーと年度によって異なり、賞金やポイントランキング、主要大会の優勝など複数のカテゴリーがあります。

シニア

一定年齢以上のゴルファーを指す一般的な呼び方。男子プロのシニアツアーでは50歳以上を対象とする例がありますが、年齢条件はツアー、競技、団体によって異なります。

支配人

ゴルフ場責任者のこと。

芝目

芝生の生える方向のこと。芝生はまっすぐに上に向かって生えるわけではなく、どちらかに傾いて生えている。グリーン上ではこの芝目によってボールの転がりが大きく左右される。

ジャッジ

規則上の事実確認や判断をすること。ゴルフではプレーヤー自身にも規則を適用し、罰を正しく申告する責任があります。一方、競技ではレフェリーや委員会が配置され、規則問題について裁定する場合があります。

シャットフェース

クラブフェースが、基準となる方向に対して閉じている状態。目標線を基準とする場合、右打ちではフェースが目標線より左、左打ちでは右を向く状態を指します。弾道を説明するときは、目標線に対するフェース向きと、クラブ軌道に対するフェース向きを区別します。反対はオープンフェースです。

シャフト

クラブのグリップとヘッドをつなぐ柄の部分。主にスチールやカーボンなどの素材で作られ、重さ、硬さ、ねじれ、しなり方などによってクラブの特性が変わります。

シャローフェース

ウッド型クラブで、フェースの上下方向の高さが比較的低い形状のこと。球の上げやすさ、重心位置、打点の許容性などはフェースの高さだけでは決まらず、ヘッド全体の設計によって異なります。

シャンク

主にアイアンで、クラブフェースではなくネックやホーゼル付近に球が当たるミスショット。右打ちの場合、球が急に右方向へ飛び出すことが多くあります。

修理地

委員会が修理地として定めた区域。一般に青杭や白線などで示されます。球が修理地にある場合や、修理地が意図するスタンス・スイング区域の障害となる場合は、原則として罰なしの救済を受けることができます。修理地がプレー禁止区域に指定されている場合は、そのままプレーすることはできません。

重心角

クラブのシャフトを水平な台に置き、ヘッドを台の外へ出して自然に垂らしたときの、フェース面が上を向く度合いを表す角度。一般に数値が大きいほどヘッドが返りやすい傾向がありますが、球のつかまりは重心距離、慣性モーメント、シャフトなどにも左右されます。

重心距離

クラブヘッドの重心からシャフトの中心線までの垂線距離。一般に短いものはヘッドを回転させやすく感じる場合がありますが、球のつかまりや操作性は、重心角、慣性モーメント、シャフト、クラブの長さなど、ヘッドとクラブ全体の設計にも左右されます。

ジュニア

年少のゴルファーを指す一般的な呼び方。対象年齢は団体や競技によって異なります。JGAジュニア会員は満6歳から満18歳までが対象で、19歳の誕生日を迎えた時点で会員資格を失います。

順目

パットやアプローチで球を転がす方向と同じ向きに芝が寝ている状態。逆目より芝の抵抗が小さく、一般に球が速く転がる傾向があります。反対は「逆目」です。見え方や転がりは、光の方向、芝種、刈り方、傾斜などによっても変わります。

シュートアウト

各ホールや定められた区切りごとに、成績の低いプレーヤーが脱落していき、最後に残ったプレーヤーで勝者を決める競技形式の通称。参加人数、脱落者の決め方、同点時の処理などは競技条件によって異なります。

障害物

人工物を指す規則用語です。合理的な努力で動かせるものは「動かせる障害物」、簡単に動かせないものや委員会が指定したものは「動かせない障害物」として扱います。境界物や不可分な物など、障害物に含まれない人工物もあります。

ショット

ボールを打つことをいう。

ショート

目的地点までボールが届かないこと。「グリーンショート」というとグリーンを狙ったけど、そこまで届かなかった状態を言う。

ショートアイアン

比較的大きなロフト角を持ち、短めの距離を狙うアイアンの通称。一般に8番、9番アイアンなどを指しますが、番手構成や分類に厳密な共通基準はありません。

ショートカット

ドックレッグのホールなどで、林や山越えのルートにショットして、近道をする事。

ショートゲーム

アプローチやパッティングなどの総称。別称「小技」。

ショートコース

全体の距離が短いゴルフコースの通称。日本ではパー3を中心としたコースを指すことが多いものの、短いパー4などを含む場合もあります。ホール数、距離、パーに共通の厳密な基準はありません。

ショートパット

カップまでの距離が短いパットの通称。何メートル以内という共通の厳密な基準はなく、距離が短くても傾斜、芝目、グリーンの速さなどによって難度は変わります。

ショートホール

【通称】日本では主にパー3のホールを指す表現。正式なスコア表示では「パー3」と表します。「ショートホール」の意味や距離の基準は、地域や文脈によって異なる場合があります。

ショルダーターン

スイングで肩を回転させる事。

芯

クラブのスイートスポットのこと。ここでボールを捕らえると「芯をくった」ともいう。またクラブだけでなくボールにも芯がある。

シングル

ハンディキャップが1桁のゴルファーを指す通称。WHSのハンディキャップインデックスでは、一般に9.9以下を目安に使われますが、公式に定められたプレーヤー区分ではありません。

振動数

クラブやシャフトを一定の条件で固定して振動させ、1分間あたりの振動回数（cpm）を測った値。一般に同じ測定条件では数値が大きいほど硬い傾向がありますが、クラブの長さ、ヘッド重量、固定方法などにも影響されるため、条件をそろえて比較します。

スウィートスポット

クラブフェース上で、インパクト時のエネルギー損失や手に伝わる振動が比較的小さくなりやすい領域の通称。「芯」とも呼ばれます。必ずしもフェースの幾何学的な中央にあるとは限らず、そこで打てば必ず最長飛距離になるという意味でもありません。

スインガー

スイングでボールを飛ばす人のこと。パワーでボールを叩きにいくヒッターと対比させる言葉。

スイング

クラブを振る一連の動作。一般にはアドレスからバックスイング、ダウンスイング、インパクト、フォロースルー、フィニッシュまでを指します。規則上の「ストローク」は、球を打つために行うクラブの前方への動きとして別に定義されています。

スイングアーク

スイング中にクラブヘッドが描く円弧のこと。円弧の大きさは体格、クラブの長さ、構え、体の回転などによって変わります。ヘッドスピードや飛距離は円弧の大きさだけで決まらず、スイングの効率、テンポ、打点などにも影響されます。

スイングバランス

クラブを振ったときに感じるヘッド側の重さの程度を表す指標で、スイングウェイトとも呼ばれます。D1、D2など英字と数字で表示されますが、クラブの総重量やヘッド重量そのものを示す値ではありません。

スイングプレーン

スイング中のクラブやシャフトの軌道を、傾いた面として捉えたもの。実際のクラブは完全な一枚の平面上だけを動くとは限らず、基準とする線や面は指導理論、スイングの局面、測定方法によって異なります。

スウェイ

スイング中に、体や回転の中心が意図する範囲を超えて左右へ流れる動きを指す通称。スイングでは自然な重心移動や地面への圧力移動も起こるため、体が横に動くことのすべてをスウェイと呼ぶわけではありません。

スキンス・マッチ

各ホールに設定された賞金やポイントなどの「スキン」を、そのホールで単独の最少スコアを記録したプレーヤーが獲得する競技形式。最少スコアが複数いる場合に次のホールへ持ち越すかどうかなど、細かな方法は競技条件によって異なります。

すくう

ボールを上げようとして、下から上にすくうようにスイングすること。

スクエア

クラブフェースが目標線に対してほぼ直角を向く状態を指します。スタンスでは、両足を結んだ線が目標線とほぼ平行な構えを指します。また、マッチプレーで両サイドに差がない状態を表す通称としても使われます。

スクエアグリップ

ストロングにもウィークにも極端に偏らない、標準的・中立的な握り方を指す通称。ニュートラルグリップとも呼ばれます。ウィークグリップとは別の分類で、適切な手の向きは体格やスイングによっても異なります。

スクエアスタンス

左右のカカトを結んだ線が飛球線と平行になる構えのこと。

スクエアドーミー

【通称・日本独自の表現】マッチプレーで、リードしているプレーヤーまたはサイドが、そのホールをタイとしてもマッチの勝利が決まる状態を表す言葉です。現行規則の定義語ではなく、正式なマッチの状態は「何ホールアップ、残り何ホール」などで確認します。

スクエアフェース

クラブフェースが、基準となる目標線に対してほぼ直角を向いている状態。構えたときのフェース向きとインパクト時のフェース向きは区別して説明します。

スクラッチ

ハンディキャップ無しで、グロススコアだけで戦うこと。

スクラッチプレーヤー

ハンディキャップインデックスが0.0のプレーヤー。アマチュアに限って使われる言葉ではありません。

スクランブリング

パーオンしなかったホールのうち、パーまたはそれより良いスコアでホールアウトした割合を表すゴルフスタッツ。算出条件はツアーや集計サービスによって異なる場合があります。

スケネクタディ・パター

【旧来のクラブ名】中央付近にシャフトが取り付けられた、マレット型に近い形状のパター。20世紀初頭に知られるようになった歴史的なパターで、名称は米国ニューヨーク州のスケネクタディに由来します。

スコア

何ストロークでホールアウトしたかという結果のこと。

スコアカード

競技で各ホールのスコアを記録するカード。ラウンド後、マーカークがホールスコアを証明し、プレイヤーも確認、証明して委員会へ提出します。実際より多いスコアを提出した場合はそのスコアが採用され、少ないスコアや無記入は原則失格です。ただし、提出時に知らなかった罰打を含めていなかった場合などには例外があります。提出方法は委員会が定める手続きに従います。

スコア誤記

ストロークプレーで、委員会へ提出したスコアカードのホールスコアに誤りがあること。実際より多いスコアを提出した場合は、その多いスコアが採用されます。実際より少ないスコアを提出した場合やスコアを記入しなかった場合は原則として失格ですが、提出前に知らなかった罰打を含めていなかった場合などには例外があります。スコアの合計やハンディキャップの適用は原則として委員会の責任です。

スコアラーク

スコアを記録する人。ストロークプレーでは通常、委員会が指定したマーカークがプレイヤーの各ホールのスコアを記録し、ラウンド終了後に証明します。プレイヤー自身も内容を確認してスコアを証明し、委員会へ提出します。

スコアライン

フェース面に刻まれたミゾのこと。

スタイミー

【旧規則用語・通称】旧規則のマッチプレーで、パッティンググリーン上の相手の球が自分の球とホールの間にあり、プレーの妨げとなる状態を指した用語です。現在の規則ではこの制度・用語は使用されません。会話では、木などが進行方向を遮る状況を比喩的に「スタイミー」と呼ぶことがあります。

スターター

ティーイングエリア付近で、スタート時刻、組合せ、打順、安全などを確認し、プレー開始を案内する係員。競技では委員会のメンバー、レフェリー、または委員会が任命したスタッフが担当することがあり、権限や役割は競技によって異なります。

スタート

ラウンドを開始すること。競技では、プレーヤーは委員会が定めたスタート時刻にプレーを始めなければならない、遅れた場合は原則として失格となります。ただし、スタート時刻から5分以内の遅刻であれば、最初のホールに一般の罰を受けます。ストロークプレーでは2罰打、マッチプレーではホールの負けです。

スタンス

ストロークの準備やストロークを行うときの、プレーヤーの足と体の位置。日常的には足幅や足の向きを中心に指して使うこともあり、左右の足の間隔が広い構えをワイドスタンスと呼びます。

すっぽぬける

右打ちの場合、意図したドローやフックがかからず、球が右方向へ抜けるように飛ぶことを指す通称。フェース向き、クラブ軌道、打点などによって起こり、広く右への弱いミスを表す場合もあります。左打ちでは左右が逆になります。

スチールシャフト

鋼製のシャフト。主にアイアンなどに使用され、一般に同等のカーボンシャフトより重い傾向がありますが、重量や特性にはさまざまな種類があります。

スティッフ

ゴルフシャフトの硬さを表すフレックス表示の一つで、一般に「S」と表記されます。多くの製品ではRより硬く、Xより軟らかい位置づけですが、フレックスの測定方法や基準はメーカー間で統一されておらず、同じSでも特性は異なります。

スティンプメーター

パッティンググリーン上で球が転がる距離を測り、グリーンの速さを数値化するための器具。一定の方法で球を転がし、平均距離をフィートなどで表します。数値が大きいほど速い傾向がありますが、速い・遅いの評価は傾斜、芝、天候、競技条件などによって異なります。

ステップ

主にスチールシャフトに設けられた段差。段差の位置や間隔、径、肉厚などによって、シャフトのしなり方や剛性分布などを調整します。段差のないステップレスシャフトもあります。

ステディ

堅実な手堅いプレーをすること。

ステーブルフォード

各ホールスコアを、委員会が定めた固定目標スコアと比較して点数化するストロークプレー。通常の配点は、固定目標より2打以上多い、またはスコアなしが0点、1打多いが1点、同じが2点、1打少ないが3点、2打少ないが4点、3打少ないが5点、4打少ないが6点で、合計点が最も多いプレーヤーが勝者となります。固定目標や配点は競技条件で変更されることがあります。

ストレートアーム

スイング中に、右打ちでは左腕、左打ちでは右腕となるリードアームを比較的伸ばして使う考え方。腕を無理に硬く固定するという意味ではなく、曲がり方や張りの程度はスイングや体格によって異なります。

ストレートフェース

クラブを基準となる姿勢で置いたとき、フェースが目標線に対してほぼスクエアに向く状態や設計を指す通称。目標線より左を向くものをフックフェース、右を向くものをオープンフェースと呼ぶことがあります。フェース角は製品ごとに異なります。

ストレートボール

狙ったところに真っ直ぐに飛ぶボールのこと。

ストローク

球を打つためにクラブを前方へ動かすこと。球を打つ意思を持ってスイングした場合は、空振りでも1ストロークとして数えます。素振りなどで打つ意思がなく偶然球に当たった場合はストロークではありません。球を押し出す、かき寄せる、すくい上げる方法で打つと規則違反となり、一般の罰を受けます。

ストロークプレー

各プレーヤーまたはサイドが、競技に参加する他のすべてのプレーヤーまたはサイドと競うプレー形式。通常のストロークプレーでは、各ラウンドのストローク数と罰打を合計したスコアが最少の者が勝者となります。ほかに最大スコア、パー／ボギー、ステーブルフォードなどの形式があります。「メダルプレー」は通常のストロークプレーを指す通称として使われます。

ストロンググリップ

右利きのプレーヤーの場合、通常より左手を右側に回してかぶせるように握るグリップ。一般にクラブフェースが閉じやすく、フック系の球が出やすい傾向があります。ウィークグリップの反対です。

スパイク

ゴルフシューズの底に付けられる鋌や突起のこと。スイング時や歩行時に足が滑りにくくなるよう設計されています。現在は交換式のソフトスパイクや、鋌のないスパイクレスシューズが広く使われ、金属スパイクの使用を禁止しているゴルフ場もあります。

スパイク跡

ゴルフシューズによってパッティンググリーン上にできた傷。現行規則では、人や外的影響による損傷として、プレーを不当に遅らせず、グリーンをできるだけ元の状態に戻す合理的な方法で罰なしに修理できます。

スパイクレスシューズ

金属製や交換式の鋌を使わず、ソールのゴム突起やパターンでグリップ力を得るゴルフシューズ。歩きやすく、現在は練習場から競技まで広く使用されています。使用条件が定められている場合は、ゴルフ場や競技の案内を確認します。

スーパーショット

目の覚めるような奇蹟的なショットのことをいう。

スパット

目印のこと。ボールの先にスパットを見つけてそれに合わせてアドレスすると打ちやすいといわれている。

スピン

球の回転のこと。回転量と回転軸の傾きは、球の高さ、飛距離、左右の曲がり、着地後の転がりなどに影響します。バックspinは後方回転そのものを指し、着地後に球が戻るかどうかは、スピン量、弾道、グリーンの硬さや傾斜などによって変わります。

素振り

ボールを打たずに練習のためにクラブを振ること。打つつもりで振ってボールに当たらなかった空振りとは違う。

スプリットハンド

パターで左右の手を離して握るグリップのこと。スプリットグリップともいう。

スプリンクラー

散水機のこと。ゴルフ場で降雨の少ないときに人工的に芝生に水をやる設備。

スプーン

【通称・旧来のクラブ名】3番ウッドのこと。現在も会話で使われることがありますが、製品表示では「3W」や「3番ウッド」が一般的です。

スモークボール

打つと煙の出るボールで、ゴルフ場のオープンの打ちぞめやコンペの始球式などに使用する。

スライス

右打ちの場合、飛行中に球が右へ大きく曲がる球筋。左打ちでは方向が逆になります。球の打ち出し方向は左、中央、右のいずれの場合もあり、曲がりには主にインパクト時にクラブフェースが軌道に対して開いていることで生じます。

スライスライン

【通称】パッティングした球が、右打ちでは右方向、左打ちでは左方向へ曲がるラインを指す日本での呼び方。利き手を問わず明確に伝える場合は、「右に曲がるライン」「左に曲がるライン」などと表現します。

スライド

横に平行移動させること。

スリークォーター

フルスイングより振り幅を抑えた、およそ4分の3程度のスイングを指す通称。距離や弾道をコントロールする目的で使われます。4分の1程度の振り幅を指すクォータースイングとは別です。

スリーパット

グリーン上で3回パットをすること。

スリーサム

日常会話では、3人で同じ組をプレーすることを指す通称です。伝統的な競技用語としては、1人のプレーヤーと、1個の球を交互にプレーする2人のパートナー側が対戦するマッチプレーを指します。

スルー・ザ・グリーン

【旧規則用語・通称】2018年までのゴルフ規則で使用されていた用語です。現在は「ジェネラルエリア」という用語を使います。両者は厳密には定義が異なるため、現行規則を説明するときは「ジェネラルエリア」を使用します。

スループレー(1Rスルー)

前半9ホールの終了後に長い休憩を取らず、そのまま後半9ホールを続けてプレーするラウンド方法。日本では「1ラウンドスルー」とも呼ばれます。休憩の有無やスタート方法はゴルフ場、競技、時間帯によって異なります。

スローバック

バックスイングをゆっくりやること。

スロープレー

プレーの進行が遅いこと。規則では不当な遅延をしてはならず、最初の違反は1罰打、2回目は一般の罰、3回目は失格となります。委員会がプレーのペースに関する方針を定めている場合は、その時間基準や罰にも従います。準備や移動を含め、速やかなペースでプレーすることが求められます。

セカンドショット

第2打目のこと。

セカンドパット

グリーン上での2回目のパットのこと。

セットアップ

ストロークを行う前に整える構え全体を指すレッスン用語。スタンス、姿勢、体やクラブフェースの向き、球の位置、グリップなどを含みます。「アドレス」とほぼ同じ意味で使われる場合もあります。

ゼネラル・ルール

世界共通のゴルフ規則を指す一般的な表現。現行のゴルフ規則はR&AとUSGAが共同で制定し、解釈しています。各コースや競技で委員会が採用する規則がローカルルールです。

セパレート

各ホールとホールの区切りのこと。隣のホールとの間に樹木などで完全に区切られていることを「樹木でセパレートされている」という。

セミファイナル

トーナメント方式の競技で、決勝進出者を決める準決勝のこと。通常、セミファイナルの勝者がファイナル（決勝）へ進みます。単に最終日の前日や、ストロークプレーの最終ラウンド前を指す言葉ではありません。

セミラフ

フェアウェイとラフの間にあり、短めのラフのこと。

セルフプレー

キャディーを付けずにプレーヤー自身でクラブの管理、球の確認、コースでの判断などを行ってラウンドすること。乗用カートやナビを利用する場合もあります。料金や利用条件、プレーのしやすさはゴルフ場によって異なります。

センターシャフト

クラブヘッドの中央に近い部分にシャフトが接続されているパターのこと。

全英オープン(The Open Championship)

男子4大メジャーの一つで、1860年に始まった最古の大会。The R&Aが主催し、毎年7月に英国のリンクスコースで開催されます。開催地は複数の歴史的なコースから選ばれますが、固定された7コースの持ち回りや、セントアンドリュースで必ず5年ごとに開催すると決められているわけではありません。

全米オープン (United States Open Golf Championship)

男子ゴルフの4大メジャー大会の1つで、USGAが主催します。通常は毎年6月に開催され、会場は年ごとに変わります。所定の出場資格を持つ選手のほか、各地で行われる予選を通過した選手が出場します。

全米プロゴルフ選手権 (PGA Championship)

男子ゴルフの4大メジャー大会の一つ。PGA of Americaが主催し、現在は基本的に5月に開催されます。

搜索

プレーヤーまたはキャディーが球を探し始めてから、原則として3分以内に球を見つける必要があります。3分を過ぎると球は紛失球となります。搜索中に偶然球を動かしても、通常は罰なしで元の箇所にリプレースします。

ソケット

クラブのシャフトとヘッドの接続部付近を指す通称。一般に、クラブヘッド側の筒状部分はホーゼル、シャフトとの境目を覆う部品はフェルールまたはソケットと呼ばれます。球がホーゼル付近に当たり、右打ちで右方向へ急に飛び出すミスを「シャンク」または俗に「ソケット」と呼ぶことがあります。左打ちでは方向が逆になることがあります。

ソール

クラブヘッドの底の部分、またはクラブの底を地面につけることをいいます。ペナルティーエリアでは基本的にクラブを地面につけられます。バンカーでは、球の直前・直後の砂に触れる、練習スイングやバックスイングで砂に触れる、砂の状態をテストするなど、特定の行為が禁止されます。

【タ行】

テンポラリー・ウォーター（一時的な水）

ペナルティーエリアではない場所に一時的にたまった水で、スタンスを取る前または後に見えるものです。単に地面が湿っている、ぬかるんでいるだけでは該当しません。異常なコース状態の一つです。

ティーイングエリア

ホールを始めるときに球をプレーしなければならない区域です。2つのティーマーカーの前端を結んだ線を前方の境界とし、そこから後方2クラブレングスの長方形となります。

タイ

同スコアまたは同順位であること。

タイミング

クラブを振るときの速さや間合いの調整のこと。

ダウン

マッチプレーで相手に負けること。1ホール負ければ1ダウン。

ダウンスイング

トップスイングからクラブをボールに向かって振り下ろすこと。

ダウンスロープ

目標方向へ下っている傾斜や、左足下がりのライなどを指す表現。英語では「downhill」ともいいます。球の高さ、方向、飛距離、転がり方は傾斜の程度、クラブ、構え、スイングなどによって変わるため、一律にスライスしやすい、短いクラブが必要とは限りません。

ダウnbrロー

インパクト時にクラブヘッドが下降している軌道で球を打つこと。アイアンショットなどで見られ、球を打った後にターフが取れる場合があります。ターフの有無や量は、クラブ、入射角、ライ、芝の状態などによって異なります。

ダックフック

急激に左に曲がるショットのことで、別名チーピンと言われる。

ターゲット

目標のこと。ターゲットラインといえば目標線のこと、目標と球を結んだ線のこと。飛球線は球と飛んでいく方向を結んだ線のこと。

打順

球をプレーする順番のこと。最初のホールは委員会が定めた組合せ順に従います。その後のティーイングエリアでは、マッチプレーは前のホールを勝った側、ストロークプレーは前のホールのグロススコアが少ない順にプレーします。ホールのプレー中は原則としてホールから最も遠い球を先にプレーします。ストロークプレーでは、安全かつ責任あるレディーゴルフも認められています。

タッチ

アプローチやパターの距離感のことをいう。

タップイン

カップの近くに止まったボールをパターで軽く叩いて入れること

タップ式

パッティングで、手首などを使い、比較的短く鋭い動きで球を打つ方法の通称。旧来、遅いグリーンなどで使われることがありましたが、芝種だけで適否が決まるものではなく、グリーンの速さやプレーヤーの打ち方によって異なります。

タテ振り

アップライトなスイング軌道でクラブを振ること。

谷越え

ボールと目標の間に谷がありそれを越えて打つことをいう。

ターフ

芝とその根、表層の土を含む芝地、またはショットによって切り取られた芝のかたまりを指す言葉。切り取られた跡はディボット跡と呼ばれ、ゴルフ場の案内に従って目土などで修復します。

ダフる

ショットした時にクラブヘッドがボールの手前に入ってしまうことをいう。

ダブルイーグル

1ホールスコアがパーより3打少ないこと。「アルバトロス」と同じ意味で、特に米国で使われる呼び方です。

ダブルパー

そのホールの規定打数の2倍叩いてしまうこと。パー4なら8打。

ダブルボギー

そのホールの規定打数より2打多いスコアのこと。

球が動く

止まっている球が元の箇所を離れて別の箇所に止まり、その動きを肉眼で確認できる場合、その球は「動いた」こととなります。球が揺れただけで元の箇所に留まる、または元の箇所へ戻った場合は動いたことになりません。球を動かした場合の罰や処置は、原因や場所によって異なります。

球を拭く

規則で認められる場合に、拾い上げた球をきれいにすること。パッティンググリーン上から拾い上げた球は拭くことができますが、球の識別、切れやひびの確認、プレーの障害、救済を受けられる状態かどうかの確認のために拾い上げた場合は、拭けない、または必要な範囲だけに制限されることがあります。

タラコ

【旧来の通称】ソールが広く、ふくらみのある中空・ユーティリティ型のアイアンなどを、その形から魚卵のたらこに見立てて呼んだ日本独自の愛称。特定の初期製品を指す場合もありますが、素材や色を一律に示す用語ではありません。

ダルマ落とし

ラフからのショットなどでクラブヘッドがボールの下を通過してしまい、ボールが真上に上がってしまうショットをいう。

ターンオーバー

スイング中、とくにインパクト前後で前腕やクラブフェースが回転していく動きを指す通称。球筋がドローやフック方向へ変化することを表して使う場合もあります。どの動きを指すかは指導法や文脈によって異なります。

ターンベリー

スコットランド南西部のサウス・エアシャーにあるゴルフリゾート。アイルサコースは全英オープン
を1977年、1986年、1994年、2009年の4回開催しています。海や灯台を望む景観でも知られていま
す。

鍛造(たんぞう)

アイアンクラブのヘッドを鉄を熱してプレス(型押し)して作る方法。鉄を溶かして鋳型に流して作る鋳
造とがある。

遅延

プレーを不当に遅らせること。規則5.6aの罰は、最初の違反が1罰打、2回目が一般の罰、3回目が失
格です。委員会がプレーのペースに関する方針を定めている場合は、その内容にも従います。

遅刻

競技では、委員会が定めたスタート時刻にプレーできる状態でいなければ原則失格です。ただし、ス
タート時刻から5分以内の遅刻であれば、最初のホールに一般の罰を受けます。例外的事情が認められ
る場合は罰がないこともあります。

チップパー

グリーン周りのチップショットを主な用途として設計されたクラブ。パターに近い打ち方をすること
もありますが、規則上はアイアンクラブとして扱われます。用具規則に適合したチップパーであれば競
技でも使用できます。

チップイン

グリーンの外から直接カップインすること。

チップショット

アプローチショットの種類(技術)のひとつ。比較的近い位置からアイアンを使って転がしてピンに寄せ
るためのショットのこと。ランニングアプローチとピッチエンドランの間といった感じ。

チーピン

右打ちの場合、低く飛び出して急激に左へ曲がる強いフック系のミスショットの通称。英語では「ダ
ックフック」と呼ばれることがあります。左打ちでは曲がる方向が逆になります。

チャンピオンコース

公式の選手権競技を行なうのにふさわしいと評価されたコースのこと。

チャンピオンシップ

選手権競技を意味する一般的な呼び方。個人戦・団体戦、マッチプレー・ストロークプレーなど形式は大会によって異なります。大会名に使用される場合もありますが、名称だけで競技方式や出場資格が決まるものではありません。

チャンピオンティ

選手権競技などで使用される、後方に設けられたティーの通称。バックティーと同じ位置の場合もあり、名称、位置、色分けはゴルフ場によって異なります。

鑄造(ちゅうぞう)

溶かした金属を鑄型に流し込み、冷やしてクラブヘッドなどの形を作る製法。複雑な形状を作りやすい特徴があります。ロストワックス製法は鑄造方法の一つであり、すべての鑄造ヘッドが同じ方法で作られるわけではありません。

中断

プレーを一時的に止めること。委員会がプレーを中断した場合、プレーヤーは中断の種類に応じて規則5.7bの手順に従います。切迫した危険による即時中断では、直ちにプレーを止めなければなりません。マッチプレーでは競技を遅らせない限り相手との合意で中断でき、プレーヤーが落雷の危険を合理的に感じた場合も自ら中断して、できるだけ早く委員会へ報告できます。

超過クラブ

ラウンド中に持つことができるクラブは14本までです。14本を超えてラウンドを始めたり、規則に反してクラブを追加したりした場合は罰を受けます。違反に気付いたときは、各超過クラブをプレーから除外することを相手やマーカーなどに伝えるか、明確な措置を取らなければなりません。罰はプレー形式と違反があったホール数によって定まり、プレーから除外したクラブで故意にストロークした場合は失格となります。

長尺ドライバー

一般的なドライバーより長いシャフトを採用したドライバーの通称。用具規則上、パター以外のクラブは48インチ以下です。競技でローカルルールひな型G-10が採用された場合は、パター以外のクラブを46インチ以下に制限できます。

ツアー

トーナメントが各地で開催され、それを巡業して回ることからトーナメント全体をこう呼ぶ。

ツアープロ

プロゴルフツアーの競技に出場して活動するプロゴルファーの通称。出場資格や優先順位は、ツアーごとのランキング、QT、予選会、優勝資格、主催者推薦などによって決まり、すべてのツアーに共通する一つの資格を指す言葉ではありません。

ツーオン

グリーンに2打で乗せること。

ツーグリーン

1つのホールに2つのグリーンが設けられているコース形式。季節、芝種、コース管理、営業方針などに応じて使用するグリーンを切り替える場合があります。2つの芝種や使用時期の組み合わせはゴルフ場によって異なります。

ツーサムプレー

1パーティを2人だけでラウンドすること。

ツーピースボール

主に一つのソリッドコアと、その外側を覆う一層のカバーからなる2層構造のゴルフボール。飛距離、スピン、打感、耐久性は使用する素材や設計によって異なり、ツーピースだから一律に止まりにくいとは限りません。

つぶす

ダウンプローに上からボールを打つこと。

ツーボール

【通称・旧来の表現】2人でプレーする組や、2球を使う練習・競技形式などを指すことがあります。2人のパートナーが1個の球を交互にプレーする正式な競技形式は、現行規則では「フォアサム（オルタネートショット）」です。意味は文脈や競技条件によって異なります。

爪先上がり

足元より球の位置が高い傾斜のライ。右打ちでは、クラブのライ角や構えの影響によって球が左へ出たり曲がったりする傾向がありますが、結果はフェース向き、クラブ軌道、傾斜の程度などによって異なります。左打ちでは左右が逆になります。

爪先下がり

足元より球の位置が低い傾斜のライ。右打ちでは、構えやスイングの影響によって球が右へ出たり曲がったりする傾向がありますが、結果はフェース向き、クラブ軌道、傾斜の程度などによって異なります。左打ちでは左右が逆になります。

トゥームストーン (Tombstone)

【通称】コースのパーに自分のハンディキャップを加えた持ちストロークでプレーし、そのストロークを使い切った地点に目印を置いて到達地点を競う方式。フラッグ競技、フラッグスなどとも呼ばれます。参加人数、同点時の処理、目印の方法など、細かな条件は競技ごとに定められます。

ティ

規則上は、ティーイングエリアからプレーするときに球を地面から浮かせるための用具を指します。長さは4インチ（101.6ミリメートル）以下で、用具規則に適合していなければなりません。スタートする区域は「ティーイングエリア」と呼びます。会話では、その区域を「ティー」と呼ぶこともあります。

ティアップ

ティーイングエリアで、球を適合するティーの上に置いて地面から浮かせること。ホールの最初のストロークだけでなく、規則に基づいてティーイングエリアから再びプレーする場合や、インプレーの球がティーイングエリア内にある場合にも認められることがあります。

ティショット

プレーしようとするホールの最初の1打目のこと。通常はボールをティアップして打つが、ティアップしなくてもティーイングエリアから打ったボールはティショットという。

ティペグ

ティーイングエリアなど、規則で認められる場合に球を地面から浮かせて置くための用具。「ティー」または「ティペグ」とも呼ばれます。用具規則に適合する必要がある、長さは4インチ（101.6ミリメートル）以下で、プレーの線を示したり球の動きに影響を与えたりするように設計・使用してはなりません。

ティマーク

ティーイングエリアの前方と左右の境界を定めるため、委員会が左右に設置する2つの目印。現在は「ティーマーカー」と呼ぶのが一般的です。形状や色はゴルフ場によって異なり、色だけで使用対象が一律に決まるものではありません。

ディスクォリファイ

規則違反や競技条件に定められた理由により失格となること。英語の「disqualify」に由来し、「DQ」と表示されることもあります。予選通過に必要な成績を満たせなかったこととは区別されます。

ティーチングプロ

ゴルフの技術や知識を教えることを職業とするプロの通称。PGAやJLPGAなどの団体が認定する指導資格のほか、さまざまな活動形態があります。指導資格とツアー競技への出場資格は別のものです。

ディープフェース

ウッド型クラブで、フェースの上下方向の高さが比較的高い形状のこと。重心位置、弾道、スピン量、打点の許容性などはフェースの高さだけでは決まらず、ヘッド全体の設計によって異なります。

ディボット

ストロークによって切り取られたり、はがれたりした芝のかたまり。また、その跡をディボット跡と呼びます。フェアウェイやアイアンショットに限って生じるものではありません。ディボット跡は、ゴルフ場の案内に従って芝を戻す、または目土をするなど適切な方法で修復します。球がディボット跡に止まっただけでは、通常は罰なしの救済を受けられません。

ディレードヒット

ダウンスイングで、手首のコックやクラブの遅れがある程度保たれ、クラブヘッドが手元より遅れて下りる動きの通称。「タメ」や「ラグ」と表現されることもあります。飛距離や方向性はこの動きだけで決まるものではありません。

ディンプル

本来は英語でエクボのことで、ボール表面に付けられた小さなくぼみのこと。

手打ち

スイングで手や腕の動きが相対的に強く、体の回転や下半身の動きとの連動が少ない状態を指すレッスン上の通称。手や腕を使うこと自体が誤りという意味ではなく、どの動きを手打ちと判断するかは指導法やスイングの目的によって異なります。

テキサスウェッジ

グリーン外からのアプローチにパターを使う事。

テークバック

スイングの開始からクラブを後方へ動かす動作。特に始動直後の部分をテークアウェイと呼ぶことがあり、両者をほぼ同じ意味で使う場合もあります。

テスト

バンカーの砂の状態を確かめる目的で砂に触れることや、パッティンググリーン、目的外グリーンの表面を故意にこすったり球を転がしたりして確かめること。禁止されるテストへの違反は一般の罰です。ラウンド前やホール間の練習には、プレー形式や場所によって別の規則が適用されます。

デッド

逃げる余地を取らず、目標を直接狙うこと。「ピンをデッドに狙う」のように使います。

テンフィンガーグリップ

10本の指すべてをグリップに触れさせて握る方法。野球のバットに近い握り方で、ベースボールグリップとも呼ばれます。

テンプラ

ティーショットで球がクラブフェースの上部やクラウン付近に当たり、前方へ十分に飛ばず高く上がるミスショットの通称。「ポップアップ」や「スカイショット」と呼ばれることもあります。ティーの高さ、入射角、打点など複数の要因で起こります。

テンポ

クラブを振る速度や拍子のこと。

テンポラリー・グリーン

グリーンを修理している時に、一時的にフェアウェイを短く刈って造った仮設のグリーンのこと。

トウ

クラブヘッドの先端部分またはクラブフェースの先端部分のこと。反対はヒール(手前)。

トウ・ヒールバランス

クラブヘッドの重量をトウ側とヒール側へ配分する設計の通称。アイアンやパターなどで、芯を外したときのヘッドのねじれを抑え、打点に対する許容性を高める目的で用いられます。バックフェースをくり抜くことだけを意味するものではなく、パターのフェースバランスやトウハングとは区別されます。

到着順

ゴルフ場でスタート時間を決める方法のひとつで、コースに早く到着した順にスタートさせること。

同伴競技者

【通称・旧規則用語】同じ組でプレーする他のプレーヤーを指して広く使われる言葉です。現行規則では基本的に「他のプレーヤー」と表現します。チームやサイドを組む「パートナー」とは意味が異なります。

トータルウェイト

クラブの全体的な重さのこと。

ドッグレッグ

フェアウェイやホールの進行方向が、犬の後ろ脚のように左右へ曲がっているホール。右へ曲がるものを右ドッグレッグ、左へ曲がるものを左ドッグレッグと呼びます。

トップ

ボールの頭を叩いてしまうこと。またはバックスイングの頂点のこと。

トーナメント

試合のこと。

トーナメント・レコード

その大会で記録された最高記録のこと。ゴルフでは、72ホールの最少ストロークや通算スコアなど、大会が定める区分ごとの記録を指します。

ドローミー

【通称】マッチプレーで、リードしているホール数と残りホール数が同じ状態を表す言葉です。現行規則では主に、何アップで残り何ホールかを示してマッチの状態を表します。

ドライバー

1番ウッドのこと。

ドライビングアイアン

主にティーショットや長い距離のショットで使う、ロングアイアン型のクラブ。通常のロングアイアンより球を上げやすく、ミスへの強さを持たせたモデルも多く、アイアン型ユーティリティと呼ばれることもあります。

ドライビング・コンテスト

主にティーショットの飛距離を競う競技やイベント。略して「ドラコン」と呼ばれます。有効打をフェアウェイや指定グリッド内に限る場合がありますが、測定方法、試技数、有効区域などは大会ごとの規定によって異なります。

ドライビング・レンジ

ゴルフ練習場のこと。

トラップ

【通称】コース上の難しい区域やバンカーを、罠になぞらえて呼ぶ表現。「サンドトラップ」も広く通じますが、現行ゴルフ規則の正式な用語は「バンカー」です。

トラブル

ボールを上手く打てないような困難な状態に陥ること。

トリプルボギー

そのホールのパーよりも3つ多いスコアでホールアウトすること。

トルク

シャフトのネジレのこと。トーションと同じ意味。この数値が多いほどねじれは大きくなる。

ドロー

引き分けること。または組合せをすることで、スタートの組合せ表をドロー表という。

ドローボール

右打ちの場合、飛行中に球が緩やかに左へ曲がる、意図的にコントロールされた球筋。左打ちでは方向が逆になります。一般に大きく左へ曲がる球はフックと呼ばれます。着地後の転がりは弾道、スピン量、地面の状態などによって異なります。

ドロッピングゾーン

委員会が特別な救済区域として設ける場所で、一般に「DZ」と表示されます。該当するローカルルールの条件に従い、球を膝の高さからドロップします。ドロッピングゾーンの使用が必須の場合と、他の救済方法も選べる場合があります。

ドロップ

救済を受けるときに、プレーヤー自身が球を膝の高さから真下に落とすことです。球は地面に触れる前にプレーヤーや用具に触れてはいけません。原則として球を救済エリア内にドロップし、その中に止める必要があります。後方線上の救済では、球を基準線上にドロップし、最初に地面に触れた地点を基準として救済エリアが定まります。

トンボ

バンカーの砂をならすレーキを指す日本での通称。形が農具のトンボに似ていることから呼ばれます。「レーキ」が一般的な名称ですが、「トンボ」もゴルフ場や会話で広く使われています。

【ナ行】

ナイスショット

良いショットを打ったプレーヤーにかかる褒め言葉。日本だけの表現ではなく、英語圏でも「Nice shot」として通じます。

流し込み

パッティングでカップのぎりぎりに届く強さで打って入れること。

ナショナル・オープン

国や地域を代表するオープン選手権の通称。日本オープン、全米オープン、全英オープンなどが代表例です。プロとアマチュアの双方に出場機会が設けられることがありますが、出場資格、予選方法、主催団体などは大会ごとに異なります。

ナーセリー

ゴルフ場の隅っこに造られている芝生の育成床。

ナッソー

フロント9、バック9、18ホールトータルの3つでそれぞれ優劣を競う。

なめる

ボールがカップの縁でくると回り、カップに入らないこと。

ニアピン

和製英語で、ボールがカップの近くに寄ることをいう。コンペではショートホールのティショットで誰が1番ピンに寄ったかを競うホールをニアピンホールという。

握り

ゴルフで賭けをすること。賭けが成立した段階で握手したことから言われる。ゴルフ技術ではグリップについて呼ぶ。トップで握りが緩むというように表現する。

二度打ち

1回のストローク中にクラブが偶然同じ球に2回以上当たること。現行規則では罰はなく、そのストロークを1回だけ数え、球はあるがままプレーします。故意に球へ再度クラブを当てた場合は別の規則が適用されます。

抜け

インパクト後にクラブヘッドが芝や砂などの抵抗を受けながら通り抜ける具合のこと。「抜けの良いクラブ」のように使います。

ネクストティ

次のホールのティーイングエリアのこと。

ネック

クラブのシャフトとヘッドの付け根の部分进行う。

ネット

グロススコアにハンディキャップを適用した後のスコア。計算方法は、使用するハンディキャップや競技形式によって異なります。また、ゴルフ場や練習場に設置する防球網を指す場合もあります。

ネームタッグ

ネームプレートとも呼ばれる、キャディーバッグに付ける名札。ゴルフ場でバッグを識別するために使用します。

ノーコック打法

バックスイングで手首のコックを意識的に抑え、手首の角度変化を小さくして打つ方法の通称。方向性や飛距離への影響は、振り幅、体の動き、クラブ、プレーヤーのスイングなどによって異なります。

ノーズ

【旧来の通称】ウッドクラブのヘッド先端側を指す呼び方。現在は通常「トゥ」といいます。反対側のシャフトに近い部分は「ヒール」です。

ノータッチ

球をあるがままプレーすることを示す一般的な呼び方。正式競技でも、悪天候などによりプリファードライのローカルルールが採用されれば、指定区域で球を拾い上げ、拭き、プレースできます。適用範囲と距離はローカルルールを確認します。

法面

傾斜地の斜面のこと。

【ハ行】

パー

ホールの規定打数のこと。

バイト

ボールにバックspinがかかって止まること。

ハイハンデ

ハンディキャップインデックスや競技で使用するハンディキャップが比較的大きいこと、またはそのプレーヤーを指す通称。公式に定められた数値の境界はありません。反対はローハンデです。

ハイフィニッシュ

クラブを振り終わったときに、高い位置にクラブがおさまること。

バウンド

ボールが落下して弾むこと。

パーシモン

柿の木を材料にしたウッドクラブのヘッド、またはそのクラブのこと。金属や複合素材のウッドが普及する以前に広く使われた旧来のクラブで、現在は主に歴史的なクラブや愛好家向けの用具として見られます。

パス

プレー進行を良くするため後続の組を先に行かせること。ボール探しに時間がかかるようならパスさせるのがエチケット。

パーセーブ

グリーンを外したりトラブルになったりした後でも、そのホールをパーで終えること。英語圏でも「par save」という表現が使われます。

パーオン

そのホールのパーから2打を引いた打数以内でパッティンググリーンに球を乗せること。パー3は1打、パー4は2打、パー5は3打以内が目安です。英語では「Green in Regulation (GIR)」と表します。

パター

グリーン上などでボールを転がしてカップに入れるために用いられるクラブ。ピン型、マレット型、ネオマレット型などさまざまな形状のものがある。

旗竿

ホールの位置を示すために立てられる、旗の付いた動かせる棒です。プレーヤーはストローク前に、旗竿をホールに立てたままプレーするか、取り除いてもらうかを選べます。グリーン上からプレーした球が、適正に残してある旗竿に当たっても通常は罰はありません。

パターマット

パット練習用のマットのこと。

バックスピン

飛んでいる球にかかる、進行方向に対して後ろ向きの回転。空気力によって揚力を生み、弾道の高さやキャリーに影響します。着地後の止まり方や戻り方は、スピン量だけでなく入射角、着地角、グリーンの硬さや傾斜などによって変わります。

バックティ

レギュラーティーなどより後方に設けられたティーの通称。距離が長く、難度が高くなることが多いものの、名称、位置、色分け、利用条件はゴルフ場によって異なります。プレーヤーの飛距離や技量に合ったティーを選びます。

バックナイン

後半の9ホールのこと。前半の9ホールはフロントナイン。

バックフェース

クラブフェースの反対側の部分をいう。

パッティング(パット)

パットすること。

パットライン

自分のボールからカップまでのボールが通るだろうと思われるラインのこと。

パーティ

同じ組で一緒にラウンドするプレーヤーたちを指す通称。人数は2人、3人、4人など、ゴルフ場や競技の条件によって異なります。

バーディ

そのホールの規定打数より1打少ない打数でホールアウトすること。

パートナー

フォアサムやフォアボールなど、同じサイドの一員として一緒に競技するプレーヤー。同じ組でプレーしているだけの他のプレーヤーは、規則上のパートナーではありません。

バードン・グリップ

右打ちの場合、右手の小指を左手の人差し指と中指の間に重ねて握る方法。オーバーラッピンググリップとも呼ばれ、ハリー・バードンの名に由来します。握りやすさや手の使い方への影響は、手の大きさやスイングによって異なります。左打ちでは左右が逆になります。

バナナボール

スライスのこと。

ハーフ

ハーフラウンドの略。またマッチプレーでそのホールのスコアが同じ時にも使われる。

パフィ

【旧来のクラブ名】4番ウッドを指す呼び方。現在は製品表示として「4W」や「4番ウッド」が一般的で、ロフト角などの仕様は製品によって異なります。

ハーフスイング

フルショットの半分ぐらいの力、またはスイングアークでスイングすること。主に距離をコントロールするときに使われトップもフィニッシュも小さくすること。

ハーフセット

フルセットよりクラブの本数を抑えたクラブセットの通称。初心者向けや持ち運びを重視したセットなどに見られます。本数やドライバー、アイアン、ウェッジ、パターなどの組み合わせは製品によって異なります。

パームグリップ

掌で握るグリップのこと。これに対して言われるのがフィンガーグリップ。

払い打ち

クラブヘッドを比較的浅い入射角で動かし、地面を掃くようなイメージで球を打つこと。フェアウェイウッドやロングアイアンなどで使われることがありますが、適切な入射角はクラブ、ライ、球筋、プレーヤーによって異なります。

バルジ

ウッド型クラブのフェースに設けられた、トゥからヒール方向の水平方向の丸み。オフセンターヒット時のギア効果などを考慮して設計されます。上下方向の丸みは「ロール」と呼ばれます。

パワーフェード

距離の出るフェードボールのこと。

バンカー

砂が用意された特別な区域で、5つの定義されたコースエリアの一つです。球をプレーする前に、砂の状態をテストする目的で触れること、球の直前・直後の砂にクラブで触れること、練習スイングやバックスイングで砂に触れることなどは禁止されます。一方、バンカー内でクラブが砂に触れたすべてのケースが罰になるわけではありません。

バンカーショット

バンカーから打ち出すショットのこと。

バウンス（バンス）

ウェッジのソール後方に設けられた張り出しや、その働きのこと。バンカーや芝の上でクラブヘッドが地面に潜りすぎるのを抑える役割があります。「バンス」も通称として広く使われます。

ハンギングライ

ダウンヒルの傾斜地に止まったボールの状態のこと。

パンチショット(Punchshot)

風の影響を抑えたい場合や、木の枝の下を通したい場合などに使う、低い弾道のコントロールショット。一般に振り幅やフォロースルーを小さめにしますが、インパクト直後にクラブヘッドを意図的に止めるという意味ではありません。

パンチマーク(Punchmark)

クラシッククラブのアイアンクラブフェースに付けられた円形の窪みのこと。

パンチャー

腕力の強さでボールを飛ばすタイプのゴルファーのこと。反対にスイングでボールを飛ばすタイプはスウィンガーという。

ハンディキャップ

技量の異なるプレーヤーが公平に競技を楽しむための仕組みです。ワールドハンディキャップシステム（WHS）では、プレーヤーの技量を示す「ハンディキャップインデックス」から、使用するティーの難易度に応じた「コースハンディキャップ」を算出し、競技形式やハンディキャップアローワンスを反映した「プレーイングハンディキャップ」を用いる場合があります。

ハンディキャップボード

メンバーコースのクラブハウスの一角にある、ゴルファーの名札をハンディキャップ順に並べたボード。

ハンドアップ

アドレスしたときに、グリップの位置が通常より高くなること。

ハンドダウン

アドレスしたときに、グリップの位置が通常より低くなること。

ハンドレイト

アドレス時、グリップがクラブヘッドよりも右(右利きの場合)にくる構えのこと。

ハンドファースト

アドレス時、グリップがクラブヘッドよりも左(右利きの場合)にくる構えのこと。

PGA

Professional Golfers' Associationの略称。日本では公益社団法人日本プロゴルフ協会を指しますが、米国ではPGA of Americaを指すことがあります。男子ツアーを運営するPGA TOURとは別組織です。

PGAツアー

米国を中心に男子プロゴルフツアーを運営する団体、およびそのツアーの名称。PGA of Americaとは別の組織です。

ビギナー

ゴルフを始めたばかりの初心者のこと。

飛球線

ボールの飛ぶ方向のこと。ボールと目標を結んだ目標線とは違う。

ビジター

ゴルフ場の利用者と、倶楽部のメンバーでない一般の人のこと。

ひっかけ

右打ちの場合、球が意図した方向より左へ飛び出すミスショットの通称。左へほぼ真っすぐ飛ぶ場合のほか、さらに左へ曲がる場合もあります。フェース向き、クラブ軌道、打点など複数の要因で起こります。左打ちでは左右が逆になります。

ピックアップ（球を拾う）

インプレーの球を拾い上げることを指す通称。規則で認められる場合や求められる場合に行います。拾い上げた球を元の箇所にリプレイスしなければならないときは、原則として拾い上げる前にその箇所をマークします。規則で認められていないのに止まっている球を拾い上げた場合は、原則として1罰打を受け、球をリプレイスします。

ピッチエンドラン

アプローチで球をあげ、落下してから転がす方法。

ピッチショット

ショートアイアンでボールを高くあげてピンやグリーンを狙うこと。

ピッチマーク

球がパッティンググリーンへ落下した衝撃でできる、芝のへこみや傷。ボールマークとも呼ばれます。自分の球が作ったピッチマークをグリーンフォークなどで適切に修復することは大切なマナーです。

ピッチングウェッジ

9番アイアンよりもロフトが多い、アプローチショット用のクラブ。

ヒッティングエリア

クラブが球へ近づくインパクト直前から、球をとらえて通過する直後までの区域や局面を指すレッスン用語。どこまでを含めるかに厳密な共通基準はなく、「インパクトゾーン」などと呼ばれることもあります。

ヒップターン

腰の回転のこと。

表示杭

コース内で距離や区域などの情報を示すために設置される杭の通称。残り距離を示す杭の場合、100ヤード、150ヤード、200ヤードなどに設けられることがあります。表示する距離、単位、色、グリーンの手前・中央・奥のどこを基準にするかはゴルフ場によって異なります。

ヒリーコース

アップダウンのきついゴルフ場をいう。

ヒール

クラブヘッドのうち、シャフトやネックに近い側の部分。反対側はトゥです。フェースのヒール寄りに球が当たることをヒールヒットと呼びますが、ネックやホーゼル付近に当たるシャンクとは区別します。

ピックアップ（左かかと）

バックスイングで左のカカトを上げること。

ヒールダウン

トップスイングからダウンスイングに移るときに左カカトを踏み込むこと。

ヒールボール

クラブフェースの中央ではなく、シャフトに近いヒール側で球を打つこと。ヒールヒットとも呼ばれます。球の打ち出し方向、高さ、曲がり方はクラブの種類、フェース向き、クラブ軌道、打点などによって異なります。

ピン

ホールの位置を示す旗竿のこと。

ピンハイ

ボールがピンの真横に止まった状態。上空から見てピンと同じ高さにあるという意味。

ピンフラッグ

ピンについている旗。

ピンポジション

ピン(カップ)の位置のこと。

ファーストパット

そのグリーンでの最初のパットのこと。2度目はセカンドパット。

ファットショット

ボールの手前を叩く、ダフリのこと。

Vの字

グリップをした時に、親指と人差し指を引付けあうように握ると、親指と人差し指がVの字になること。

フィニッシュ

クラブをスイングし終わった状態のこと。

フェアウェイ

ティーイングエリアから、グリーンまでの間の芝生を短く刈った部分のこと。

フェアウェイウッド

主にフェアウェイやティーイングエリアから長い距離を打つためのウッド型クラブ。3番、5番、7番ウッドなどさまざまな番手があり、ラフなどから使用する場合があります。ドライバーよりヘッドが小さく、シャフトが短い設計が一般的です。

フェアウェイバンカー

フェアウエーに造られているバンカーのこと。フェアウェイを横切る形で造られているのはクロスバンカーという。

フェース

クラブの打球面のこと。クラブフェースの略。

フェースプログレッション

クラブを基準となる姿勢で置いたときの、シャフト軸線とフェース下部のリーディングエッジとの水平方向の距離。FP値とも呼ばれます。一般に値が小さいほどオフセットが大きい傾向がありますが、ネック形状や球のつかまりはFP値だけで決まるものではありません。

フェースインサート

パターなどのフェース面に組み込まれた別素材の部品。樹脂、金属、エラストマーなどさまざまな素材が使われ、打感、打音、球の転がりなどを調整する目的で設計されます。効果は素材だけでなく、溝や厚さ、ヘッド全体の設計によっても異なります。

フェードボール

右打ちの場合、飛行中に球が緩やかに右へ曲がる、意図的にコントロールされた球筋。左打ちでは方向が逆になります。一般に大きく右へ曲がる球はスライスと呼ばれます。着地後の転がりも弾道、スピン量、地面の状態などによって異なります。

フォア

打球が人のいる方向へ飛んだときなどに、危険を知らせるための掛け声。打球事故を防ぐため、危険があると判断したら直ちに大きな声で「フォア」と知らせることが重要な安全上のマナーです。

フォアキャディー

【通称・旧規則用語】ブラインドホールなどで前方に待機し、球の位置や行方をプレーヤーに示す係員。プレーヤー個人のキャディーではなく、規則上は外的影響として扱われます。打ってよいかを知らせる安全確認係を兼ねる場合もありますが、役割はゴルフ場や競技によって異なります。

フォアサム

2人のパートナーが1つのサイドとして、1個の球を交互にプレーする競技形式。マッチプレーでもストロークプレーでも行われ、オルタネートショットとも呼ばれます。各ホールのティーショットを打つ順番も交互にします。

フォアボール

2人のパートナーが1つのサイドとして、それぞれ自分の球をプレーし、各ホールでは2人のうち少ない方のスコアをサイドのスコアとする競技形式。マッチプレーでもストロークプレーでも行われます。1人のスコアがそのサイドのスコアとして確定する場合、もう1人はホールアウトする必要がありません。

フォーム

スイングの形のこと。

フォローウインド

目標に向かって追い風が吹いていること。反対に逆風はアゲンストウインド。通常では単にフォロー、アゲンストという。

フォロースルー

スイングのインパクトからフィニッシュまでをいう。

フォワードプレス

スイング始動時のきっかけとして、グリップや右ヒザをも目標方向に押し込むこと。

吹き上がる

球が必要以上に高く上がり、前へ進む力が弱く見える弾道の通称。スピン量、ダイナミックロフト、打点、ヘッドスピード、向かい風など複数の要因で起こることがあり、単にクラブを上から打ち込んだことだけが原因とは限りません。

ふける

右打ちの場合、球が右方向へ弱く抜けるように飛ぶミスを表す通称。「ふかす」ともいいます。フェース向き、クラブ軌道、打点、スピン量などによって、右へ打ち出す場合や右へ曲がる場合があります。左打ちでは左右が逆になります。

フック

右打ちの場合、飛行中に球が左へ大きく曲がる球筋。左打ちでは方向が逆になります。球の打ち出し方向は左、中央、右のいずれの場合もあり、曲がりには主にインパクト時にクラブフェースが軌道に対して閉じていることで生じます。緩やかで意図的な曲がりにはドローと呼ばれます。

プッシュ

右打ちの場合、球が目標より右へ打ち出され、大きく曲がらずに飛ぶ球筋やミスショット。左打ちでは左右が逆になります。打ち出し方向や曲がり方は、フェース向きとクラブ軌道の関係などによって変わります。

ブービー

日本のゴルフコンペでは、最下位から2番目の人やその順位に贈る賞を指すことが一般的です。最下位を「ブービーメーカー」と呼ぶこともあります。英語の「booby prize」は、一般に最下位や成績の振るわなかった人に贈る賞を指します。

フライヤー

ラフからのショットなどで、球とクラブフェースの間に芝が挟まり、バックスピン量が減って想定より飛距離が出る現象。グリーン上で球が止まりにくくなることもあります。

フライングエルボー

トップオブスイングで右肘が高く上がること。

ブラインド

ティーイングエリアに立って打っていく先が見えないこと。

プラスハンデ

ハンディキャップインデックスが0.0より良いプレーヤーのハンディキャップ。例えば計算上の数値がマイナス2.0の場合、通常はプラス記号を用いて「+2.0」と表示します。

ブラッシー

【旧来のクラブ名】2番ウッドを指す呼び方。現在はほとんど使用されず、現代のフェアウェイウッドとロフト角や長さなどが厳密に同じとは限りません。

フラットスイング

クラブやシャフトの軌道が、基準とするスイングやプレーヤーの体格に対して比較的横方向で、傾きが緩やかなスイングの通称。実際のクラブ軌道が地面と水平になるという意味ではありません。

フランジソール

クラブヘッドのソール部分に厚みのある出っ張りをつけたもの。

フリーストップ

罰なしの救済で球をドロップすることの通称。異常なコース状態など通常の規則による場合と、ローカルルールによる場合があります。規則で定められた救済エリアに、膝の高さから球をドロップします。

プリファードライ

悪天候などでコース状態が良くないときに採用されるローカルルールで、委員会が定めた区域で球を拾い上げ、拭いて、指定された救済エリア内にプレースできます。「6インチプレース」と呼ばれることもあります。対象区域や救済エリアの大きさはローカルルールの記載を確認します。

フルショット

通常の大きな振り幅で行うショットの通称。距離を出す目的で使われることが多いものの、必ずしも力を最大限に入れたり、体を限界まで回転させたりすることを意味しません。

フルセット

ラウンドに必要なクラブを一通りそろえたセットの通称。セットに含まれる本数や構成は製品やプレーヤーによって異なります。規則上、ラウンド中に使用できるクラブは最大14本ですが、フルセットが必ず14本を意味するわけではありません。

プレーオフ

競技で首位が同スコアとなった場合などに、優勝者や順位を決めるために行う追加競技。1ホールごとのサドンデスのほか、2ホール、3ホール、4ホール、18ホールなどの合計スコアで争う方式があり、競技規定によって決まります。

プレース

規則に従い、球を手で所定の箇所に置いて手を離し、その箇所に止まらせること。救済の手続きによって、元の球または別の球を使用できる場合があります。元の箇所へ球を戻すことは「リプレース」といいます。

フレックス

シャフトの硬度をあらわす言葉。柔らかいほうから、R(レギュラー)、S(スティッフ)、X(エキストラスティッフ)などアルファベットで表記される。基準はメーカーごとに異なり統一の基準はない。

プレッシャー

精神的圧迫のこと。

ブレード

ゴルフクラブの形状を表す言葉。アイアンでは背面が薄くシンプルな伝統的形狀のヘッド、パターでは細身で板狀のヘッドを指して使われます。

ブレードタイプパター

ヘッドの前後幅が比較的小さく、細身で板状に見えるパターの総称。L字型、ピン型に近い形状など複数の設計があり、L字型だけを指すとは限りません。マレット型やネオマレット型と対比して使われます。

プレーヤー

ゴルフをプレーする人。現行規則では、マッチプレー、ストロークプレー、通常のラウンドなどを通じて、基本的に「プレーヤー」と表現します。

プロゴルファー

賞金を得るために競技へ出場する、ゴルフを指導して報酬を得るなど、プロとして活動するゴルファーの一般的な呼び方です。所属団体の資格認定、各ツアーの出場資格、アマチュア資格規則上の扱いはそれぞれ別であり、プロ資格を得ただけですべてのトーナメントに出場できるわけではありません。

プロサイド

パッティングで傾斜による曲がりを大きめに見て、カップの高い側へ外すことを指す通称。反対に、曲がりを少なく見積もって低い側へ外すことをアマチュアサイドと呼びます。

プロショップ

ゴルフ用品を販売する店のこと。

プロテスト

日本では主にPGAやJLPGAなどが実施する資格認定試験の通称です。合格によって得られる資格や会員区分と、各ツアーへの出場資格は同じではありません。競技への出場には、QT、予選会、ランキング、主催者推薦など、別の条件が必要となる場合があります。

プロビジョナルボール

暫定球のこと。球がアウトオブバウンズ、またはペナルティーエリア以外で紛失した可能性がある場合に、時間節約のためにプレーする別の球です。プレーする前に、暫定球であることを明確に伝える必要があります。

フロント

ゴルフ場の受付のこと。

フロントティ

一般にバックティーやレギュラーティーより前方に設けられたティーの通称。名称や位置、色分けはゴルフ場によって異なります。

フロントナイン

18ホールのプレーのうち前半の9ホールをいう。後半の9ホールはバックナイン。

紛失球

プレーヤーまたはキャディーが捜索を始めてから3分以内に見つからなかった球です。原則として1罰打を加え、直前のストロークを行った場所からプレーする「ストロークと距離の救済」を受けます。近辺から2罰打でプレーできるのは、ローカルルールひな型E-5が採用されている場合に限られます。

ベアグラウンド

芝生がなく地面がむき出しになっている状態のライのこと。

ベスグロ

「ベストグロス」の略。ハンディキャップを差し引く前のグロススコアが最少の成績、またはその成績に対する賞を指します。受賞したプレーヤーを「ベスグロ」と呼ぶこともあります。

ベースボールグリップ

野球のバットを握るように、10本の指でクラブを握るグリップ。

べた足

足のカートをバックスイングからインパクトまで上げないでスイングする打ち方。

ヘッド

クラブのシャフトの先のボールを打つ部分全体のこと。

ヘッドアップ

スイング中、インパクト前後に頭や上体が早く起き上がったり、視線が目標方向へ早く移ったりする動きを指すレッスン上の通称。打点のずれなどにつながる場合がありますが、頭の位置が動くことのすべてを誤りとする言葉ではなく、原因や影響はスイングによって異なります。

ヘッドカバー

ウッドクラブの傷予防のためにかぶせるカバーのこと。

ヘッドスピード

インパクト付近でクラブヘッドが動く速さ。一般に速いほど大きな飛距離につながる可能性がありますが、実際の飛距離には打点、ボール初速、打ち出し角、スピン量なども影響します。

ペナルティ

規則違反や罰を伴う救済によって課される罰。1罰打、一般の罰、失格などがあります。一般の罰は、マッチプレーではホールの負け、ストロークプレーでは2罰打です。

ペナルティーエリア

すべての水域と、委員会がペナルティーエリアとして定めたその他の区域をいいます。黄色と赤の区域があり、赤のペナルティーエリアではラテラル救済も選べます。区域内の球は罰なしでそのままプレーでき、基本的にクラブを地面につけることもできます。1罰打の救済を受ける場合、球が見つからなくても、その区域内にあることが分かっている、または事実上確実であればペナルティーエリアの救済を受けられます。それ以外は紛失球として扱います。

ヘビーラフ

フェアウエーの外側の芝生を長くした部分のうち、さらに芝を長く伸ばして難易度を高めた部分。

ペリア方式

公式のハンディキャップを持たない参加者を含むコンペなどで、委員会が選んだ隠しホールのスコアから、そのラウンド限りのハンディキャップを算出する方式。隠しホールの数、上限、計算式などは競技条件で定めます。WHSの公式ハンディキャップとは別の方法です。

ベントグラス

パッティンググリーンに多く使われる寒地型の芝。葉が細く、低く刈り込めるため滑らかな転がりを作りやすい一方、高温多湿に弱く、夏季は特に丁寧な管理が必要です。

ベントグリーン

ベントグラスを使用して造られたパッティンググリーン。日本のゴルフ場でも広く使われていますが、1グリーンか2グリーンか、ほかの芝種と使い分けるかは、地域、気候、設計、管理方針などによって異なります。

ホイッピー

軟らかいシャフトのこと。

砲台グリーン

砲台のようにグリーンがフェアウエーより一段高く盛り上がるように造られたグリーン。

ボギー

ホールの基準打数のパーよりも1打多いスコアのこと。

ポスチャー

姿勢のこと。

舗装道路

コース内の人工的に舗装された道路は、通常「動かせない障害物」として扱われます。球が道路上にある場合や、道路が意図するスタンス・スイング区域の障害となる場合、原則として完全な救済のニヤレストポイントを基点とした1クラブレンジス以内の救済エリアにドロップして、罰なしの救済を受けることができます。ただし、球がペナルティーエリアにある場合などはこの救済を受けられません。

歩測

歩数を数え、1歩あたりの長さを基準にして距離を測ったり見積もったりすること。ゴルフではショットやパットの距離確認に使われます。現在はヤードージブック、コース表示、GPS、レーザー距離計なども状況や規則に応じて利用されます。

ポッドバンカー

蛸壺のような形の比較的小さく深いバンカーのこと。日本には少ないがイギリスのリンクスに多い。

ボディーターン

体を回転させること。または体の回転でボールを打つスイングのこと。

ホームコース

自分が会員となっているゴルフコースや、日常的に多くプレーして活動の拠点としているコースを指す通称。必ずしも最も得意なコースという意味ではありません。

ホール

ゴルフでは2つの意味で使われます。一つは、ティーイングエリアからパッティンググリーン上の穴までをプレーするコースの一区画。もう一つは、パッティンググリーンに設けられた球を入れる穴です。規則上、穴の直径は108ミリメートル（4.25インチ）、深さは少なくとも101.6ミリメートル（4インチ）です。

ボール

ゴルフボールのこと。

ホールアウト

ストローク後に球がホールの中で止まり、球全体がパッティンググリーン面より下にある状態となって、そのホールを終えること。旗竿に寄りかかっている球については、規則に定められた特別な扱いがあります。

ホールインワン

ホールの第1打をティーイングエリアからプレーし、その1ストロークで球がホールに入ること。球が途中で地面などに当たったかどうかには左右されません。「エース」とも呼ばれます。

ホールカッター

カップ(ホール)をあける道具。

ボールマーカー

拾い上げる球の箇所をマークするために使う人工物。ティー、コイン、専用のボールマーカー、その他の小さな用具などをいいます。クラブを球の直後またはすぐ横の地面に留めて箇所をマークする方法も認められますが、クラブ自体は定義上の「ボールマーカー」ではありません。

【マ行】

マウンド

コースの中にある起伏したコブのようなもの。

マーカー

ストロークプレーで、プレーヤーの各ホールスコアを記入し、スコアカードを証明する責任を持つ人。委員会が指名するか承認します。マーカーはレフェリーとは限りません。

巻物

樹木保護のために巻き付けられたムシロやネットなど。通常は人工物として障害物に該当します。動かせない障害物として扱われる場合、その物が球や意図するスタンス・スイング区域の障害となれば、規則に従って罰なしの救済を受けられることがあります。

マーキング

クラブフェースに設けられた溝やパンチマークなどの模様・刻印を指す用具規則上の表現です。インパクトエリアのマーキングは、形状、幅、深さ、間隔などについて用具規則の要件に適合しなければなりません。認められるマーキングは溝だけに限られません。

マーク

規則に基づいて球をリプレイスする必要がある場合に、球を拾い上げる前にその箇所を示すこと。球の直後またはすぐ横にボールマーカーを置くか、クラブを地面に留めて行います。救済を受けるために球を拾い上げる場合など、球の箇所をマークする必要がない場合もあります。

マスターアイ

利き目のこと。左右の目のうち、物の位置や方向を判断するとき優位に働く目を指します。ゴルフでは、構えや目標の見え方を確認する際の参考にすることがあります。

マスターズ

男子4大メジャーの一つ。1934年にオーガスタ・ナショナル招待選手権として始まり、1939年に現在の名称となりました。毎年4月に米国ジョージア州のオーガスタ・ナショナル・ゴルフクラブで開催され、優勝者にはグリーンジャケットが贈られます。

待ち時間

前の組の進行を待つ時間や、ハーフ終了後に後半のスタートを待つ時間のこと。ゴルフ場や当日の運営によっては休憩を設けず、18ホールを続けてプレーするスループレーもあります。

マッシー

【旧来のクラブ名】ロフトのあるアイアンクラブを指した呼び方。現代の5番アイアンに相当すると説明されることがありますが、当時のクラブ仕様は統一されておらず、厳密に同じものではありません。

マッチプレー

プレーヤーまたはサイドが、各ホールの勝ち、負け、タイを積み重ねて対戦する競技形式。残りホール数より多くリードした時点などでマッチの勝敗が決まります。リードは「何ホールアップ」、タイは「オールスクエア」、同スコアのホールは「ハーフ」とも呼ばれます。勝ち越し数と残りホール数が同じ状態を「ドローミー」と呼ぶこともありますが、これらは通称として併記し、正式な判定は現行規則と競技の条件に従います。

マナー

ゴルフの行儀作法のこと。

マリガン

私的なプレーなどで、失敗したショットを罰なしで打ち直すことを認める非公式な慣習。最初のティーショットで行われることが多いものの、ゴルフ規則で認められた処置ではなく、正式な競技では使用できません。

マレットパター

ヘッドの前後方向に奥行きがあり、比較的大型の形状を持つパターの総称。半円形、角形、複合形状などがあり、慣性モーメントやアライメント性能を重視した設計が多く見られます。

マンデートーナメント

シード権を持たない選手、QT下位の選手、アマチュアなどトーナメント出場権を持たない選手たちに出場の機会を与えるために行われる事前選考会のこと。月曜日に行われることが多いのでこの名称がついた。“マンデー”と略して使われることが多い。

水切りショット

低い角度で水面に入った球が、石の水切りのように何度か跳ねて進むショットの通称。池越えなどで偶然起こる場合のほか、イベントやエキシビションで意図的に行われることもあり、必ずしもトップしたミスショットだけを指すものではありません。

ミスショット

意図したショットに失敗すること。

溝

コース内の排水用の水路や、クラブフェースに刻まれた横溝を指す言葉。コース内の溝は、形状や委員会の指定によってペナルティーエリア、動かさない障害物、またはジェネラルエリアとして扱いが異なるため、コースの表示とローカルルールを確認します。

ミドルアイアン

中間的なロフト角と距離を持つアイアンの通称。一般に5番、6番、7番アイアン程度を指しますが、クラブセットの構成や分類に厳密な共通基準はありません。

ミドルホール

【通称】日本では主にパー4のホールを指す表現。正式なスコア表示では「パー4」と表します。「ミドルホール」は現行ゴルフ規則の定義語ではありません。

明治の大砲

ショットした後、体重が右足に残りフィニッシュで後ろによろける打ち方のこと。

メジャータイトル

男子プロゴルフでは、マスターズ、全米プロゴルフ選手権、全米オープン、全英オープンの4大会の優勝タイトルを指します。同じ年に4大会すべてで優勝することを年間グランドスラム、複数年を通じて生涯で4大会すべてに優勝することをキャリアグランドスラムと呼びます。

目土

ショットでできたディボット跡に、砂やゴルフ場が指定した目土材を入れて表面を整えること。また、そのための材料を指します。芝の回復を助けるコース保護のための大切なマナーです。使用方法是ゴルフ場の案内に従います。

メンバーシップコース

会員制度を持つゴルフ場。会員に予約、競技参加、料金などの権利や優遇が設けられることがあります。預託金制、株主会員制、年会費制など仕組みはさまざまで、ビジターの利用条件もゴルフ場によって異なります。会員を設けず一般利用を中心とするコースは、パブリックコースと呼ばれます。

メンバーフィー

メンバーシップコースで会員がプレーするときに適用される料金を指す通称。プレーフィー、グリーンフィーなどの名称や内訳はゴルフ場によって異なります。会員が別途支払う年会費とは区別して使われます。

目標線

ボールと目標とを結んだ線のこと。

モグラの穴

モグラの穴や、そこから掘り出された土などは「動物の穴」に該当し、異常なコース状態です。球や意図するスタンス、スイング区域に物理的な障害がある場合、原則として完全な救済のニヤレストポイントを基点とした1クラブレンジス以内の救済エリアで罰なしの救済を受けられます。球がペナルティーエリア内にある場合はこの救済を受けられません。

【ヤ行】

ヤーデージレーティング

コースの実効的なプレー距離を評価する考え方。現在のWHSにおけるコースレーティングでは、実測距離だけでなく高低差、風、標高、ロールなど、実効的なプレー距離に影響する要素も考慮されます。

ヤード

ゴルフで使われる距離の単位。1ヤード=約91.4センチ。

ヤード杭

グリーンまでの残り距離を示すためにコース内へ設置される杭や目印。100ヤード、150ヤード、200ヤードなどの位置に設けられることがありますが、表示位置、色、単位、グリーン手前・中央・奥のどこを基準にするかはゴルフ場によって異なります。

ユーティリティクラブ

フェアウェイウッドとロングアイアンの中間的な特徴を持つクラブ。ハイブリッド、レスキューなどと呼ばれることもあります。ウッド型やアイアン型などがあり、長い距離のショットを比較的打ちやすくする目的で幅広いゴルファーに使用されています。性能や適するライは製品と打ち方によって異なります。

ヨコ振り

その人の体型のわりにはフラットな軌道でクラブを振ること。逆にアップライトな軌道はタテ振りという。

寄せ

ボールをカップの近くに寄せること。アプローチのこと。

寄せワン

アプローチでボールをカップの近くに寄せて1パットで入れること。

【ワ行】

ライ

ボールの止まっている周辺の芝や砂の状態のこと。

ライ角

クラブを基準となる姿勢で置いたときの、地面とシャフトの中心線が作る角度。インパクト時のライ角が適正でないと、打ち出し方向に影響することがあります。一般に右打ちでは、トゥ側が浮くと左へ、ヒール側が浮くと右へ出る傾向があります。

ライダーカップ

米国選抜と欧州選抜による男子プロゴルフのチーム対抗戦。2年に1度、米国と欧州で交互に開催されます。

ライン

ショットやパットの時のボールが進んでいく方向のこと。

ラインアップ

アドレスで目標に正しく照準を合わせること。

ラウンド

委員会が定めた順序で18ホール、またはそれより少ないホールをプレーすることです。通常は18ホールですが、9ホール競技や、委員会が定めた短いラウンドも規則上のラウンドに含まれます。

ラウンドレッスン

コースをまわりながらレッスンを受けること。練習場と違ってより現実的に教わる事が出来る。コースレッスンともいう。

ラバーグリップ

ゴムを主な素材として作られたクラブ用グリップ。天然ゴム、合成ゴム、コードや樹脂を組み合わせたものなどがあり、太さ、重量、硬さ、表面形状によって握り心地や滑りにくさが異なります。

ラフ

フェアウエーを囲む芝生の長い部分をいう。

ラブ・オブ・ザ・グリーン

【旧規則用語・通称】以前、動いている球が偶然人や物に当たった場合などに使われた表現です。現行規則ではこの用語は使用しません。規則11.1により通常は誰にも罰がなく、球をあるがままプレーしますが、パッティンググリーン上からプレーした球については再プレーとなる例外があります。

ラン

打ったボールが着地してから転がること。

ランニングアプローチ

グリーンまわりでボールを転がしてカップに寄せること。

リアルロフト

クラブに表示されたロフト角ではなく、実際に測定したロフト角を指す通称。特にドライバーなどで、表示ロフトと区別するときに使われます。測定時のクラブの置き方や基準は測定器、メーカー、フィッティング方法によって異なる場合があります。

リカバリー・ショット

失敗した後のショットのこと。

リスト

手首のこと。

リゾートコース

避暑地などの観光地にあるゴルフ場のこと。

リップ

カップの淵のことをいう。

リード

クラブを導くこと。

リーダーボード

トーナメントでトップに立っている人をトーナメントリーダーというが、リードしている人をスコア順に掲示する告知板のこと。スコアボードともいう。

リバースハンド・グリップ

左右の手が反対になる握り方。パッティングの時にこのグリップをする人がいる。

リーディングエッジ

フェースの下端とソール前方の境界線のこと。

リプレー스

拾い上げた球や動かされた球を、規則に従って元の箇所（分からない場合は推定した箇所）に手で置き直すこと。原則として元の球を使用しますが、規則で別の球を使用できる例外もあります。

リペア

修理すること。コース内の修理地はアンダーリペアという。

リンガースコア

同じコースを何回もラウンドして、そのうちの各ホールベストのスコアを合計したものをいう。

林間コース

ホールとホールの間を林でセパレートされているコースのこと。

リンクス

海岸沿いの砂質土壌や自然の起伏、砂丘などを生かして造られた伝統的なゴルフコース。風の影響を受けやすく、硬い地面や深いバンカーなどが特徴となることがあります。単に海の近くにあるだけでリンクスと呼ぶとは限りません。

ルースインペディメント

固定されていない石、落ち葉、枝、動物のふんなどの自然物です。コース上・コース外のどこでも原則として取り除けるため、バンカーやペナルティーエリアでも取り除けます。ただし、取り除いたことで球が動いた場合は、場所によって罰やリプレースが必要になることがあります。

ルックアップ

ヘッドアップのこと。ボールを打つ前にボールから目を離してしまうこと。

ループ

トップオブスイングからダウンスイングに入るときに、クラブヘッドが輪を描くことをいう。

ルールブック

R&AとUSGAが共同で制定し、解釈するゴルフ規則を収録した規則書。日本語版はJGAが提供しています。

レイアウト

コースの設計のこと。

レイアップ

グリーンまで距離のある場合などに、安全にボールを狙ったポジションに置きに行くこと。方向性重視な打ち方。

レーキ

バンカーをならす道具のこと。

レギュラーティ

一般のプレーで標準的に使用されるティーの通称。適した飛距離や技量、名称、位置、色分けはゴルフ場によって異なります。

レザーグリップ

革で作られたグリップのこと。

レススプロ

ゴルフの技術を教えることを職業にしているプロゴルファーのこと。

レディース

女性ゴルファーのこと。

レディースクラブ

女性向けとして販売されるゴルフクラブの通称。一般に軽量、短め、軟らかめのシャフトを採用したモデルが多いものの、長さ、重量、硬さは製品によって異なります。性別だけで固定せず、体格、筋力、ヘッドスピード、振りやすさに合わせて選びます。

レディースデー

ゴルフ場が女性ゴルファーのために、女性だけに特典や割引を設けた日のこと。

レディースティ

前方に設けられることが多いティーイング場所の通称です。現在は性別だけで固定せず、プレーヤーの飛距離や技量、楽しみ方に合うティーを選ぶ考え方が一般的です。赤いティーマーカーが女性専用とは限りません。

レートビギナー

若い頃ではなく、ある程度年齢を重ねてからゴルフを始めた人を指す通称。明確な年齢基準はなく、必ずしも高齢者だけを指す言葉ではありません。英語の「late beginner」に由来します。

レートヒット

ダウンスイングで手首のコックやクラブの遅れを保ち、インパクト直前までクラブヘッドのリリースを遅らせる動き・打ち方の通称。「ディレードヒット」とほぼ同じ意味で使われます。

レングス

長さを表す言葉です。規則で使う1クラブレングスは、ラウンド中に持っているクラブのうち、パターを除く最も長いクラブの長さを基準にします。

練習グリーン

パッティングや短いアプローチなどを練習するために設けられたグリーン。複数のホールが設けられていることがあります。本コースのグリーンに近い状態を目指して管理されますが、速さ、芝目、硬さなどが必ず同じとは限りません。

練習ストローク

練習目的で球にストロークすること。ホールのプレー中は禁止されます。ホール終了後から次のホール開始前は、終了したグリーンや練習グリーン、その近く、次のティーイングエリアでのパッティングやチIPPINGが認められる場合があります。ただしバンカーからは禁止され、ローカルルールで制限されることもあります。

ローカルルール

コースや競技に特有の状況に対応するため、委員会がゴルフ規則で認められた範囲内で採用する規則。プレーヤーはラウンド前に、その競技やコースで採用されている内容を確認します。

6インチプレス

プリファードライを採用するローカルルールで、指定された区域の球を拾い上げ、拭き、元の箇所から6インチ以内など委員会が定めた救済エリアにプレスすることの通称。常に使える規則ではありません。

ローシングル

1桁のハンディキャップの中でも特に数値が小さいゴルファーを指す通称。「片手シングル」とも呼ばれ、一般に5前後以下を目安としますが、公式に定められた区分ではありません。

ロストボール（紛失球）

プレーヤーまたはキャディーが搜索を始めてから3分以内に見つからなかった球です。原則は1罰打を加えて元の場所から打ち直す「ストロークと距離の救済」です。近辺から2罰打でプレーできるのは、ローカルルールひな型E-5が採用されている場合に限られます。

ロッカールーム

ゴルフ場のクラブハウスなどに設けられた、着替えや荷物の保管に使用する場所。ロッカーの利用方法や、浴室、シャワーなどの付帯設備はゴルフ場によって異なります。

ローハンデ

ハンディキャップインデックスが比較的小さいプレーヤーを指す一般的な表現。公式に定められた数値範囲はありません。現行のワールドハンディキャップシステムでは、ハンディキャップインデックスの上限は54.0です。

ローボール

通常より低い弾道の球や、そのように打つショットの通称。向かい風の影響を抑えたい場合、木の枝の下を通したい場合、着地後に転がしたい場合などに使われますが、状況によって最適な球筋は異なります。

ロフト

クラブを基準となる姿勢で置いたときの、クラブフェースの傾きを表す角度。一般にロフト角が大きいほど球は上がりやすくなりますが、実際の打ち出し角やスピン量は、インパクト時のダイナミックロフト、打点、クラブ軌道などにも左右されます。

ロブショット

ボールをふわりと上げて打つアプローチショット。

ロール

ウッドのフェースは曲面になっていて、フェースの上下方向の曲がりのこと。

ロングアイアン

ロフト角が小さく、長い距離を打つアイアンの通称。一般に2番、3番、4番アイアンなどを指しますが、現在のクラブセットではユーティリティなどに置き換えられることもあり、分類に厳密な共通基準はありません。

ロングヒッター

ドライバースhotsの飛距離が出る人をいう。

ロングホール

【通称】日本では主にパー5のホールを指す表現。正式なスコア表示では「パー5」と表します。「ロングホール」は現行ゴルフ規則の定義語ではありません。

windアップ

バックスイングで体を回転させ、上半身と下半身の間などにねじれや張りが生じる動きを表す通称。下半身を完全に固定するという意味ではなく、回転量や体の使い方は体格やスイングによって異なります。

ワググル

アドレスしてからクラブを左右に小刻みに動かす動作のこと。これによって体の緊張がほぐれて、スイングのリズムがうまれる。

ワンオン

そのホールの第1打で球をパッティンググリーンに乗せること。パー3ではワンオンするとパーオンとなり、その後2パットでホールアウトすればパーですが、ワンオンはパー3だけに限られる言葉ではありません。

ワングリーン

1つのホールにグリーンが1つ造られていることをいう。

ワンピース・スイング

体全体で一つの動きとなってクラブを振るスイングのこと。

ワンボール・ツーサム

2人のパートナーが1個の球を交互にプレーする方式を指した旧来の通称。現在の規則では「フォアサム（オルタネートショット）」という表現が使われます。